

# 社会福祉法人翠燿会

## 令和4年度事業報告書

特別養護老人ホームグリーンヒル  
グリーンヒル短期入所生活介護  
グリーンヒル居宅介護支援事業  
グリーンヒルデイサービスセンター  
グリーンヒル訪問介護  
グリーンヒル福祉タクシー

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台  
グリーンヒル八千代台短期入所生活介護  
グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業  
グリーンヒル八千代台小規模多機能型居宅介護  
同上 サテライト勝田台  
グリーンヒル八千代台訪問介護  
グリーンヒル八千代台キッズルーム  
共生 café ふらっとホームグリーンヒル  
グリーンヒル八千代台南デイホーム

### 障害児通所事業

グリーンヒルキッズ村上  
グリーンヒルキッズゆりのき台  
グリーンヒルキッズジュニア

### 自立援助ホーム

グリーンヒル若葉ハウス

八千代市勝田台地域包括支援センター  
介護予防支援事業

法人本部総務課

令和5年5月

社会福祉法人 翠燿会

令和2年1月に国内で一例目の新型コロナウイルスが確認されて以降、この3年間感染防止対策に集中した日々であったと言える。その間ご利用者、ご家族をはじめ、職員・従事者さらにはそのご家族のご支援、ご協力により感染防止対策を継続できたことに感謝します。周知のとおり本年5月8日付で感染症法上「5類への引き下げ」となり、新たな局面を迎えることとなりましたが、高齢者施設・事業所として今後も介護を必要とする高齢者に対して必要な水際対策等を図り、健康を守ることを基本に職員と共に日々のかかわりを大切にまいります。

同時に人手不足や大幅な物価高騰等への対応等により、全国的に施設等経営が極めて厳しい状況がある中、当法人各事業所、各職員の頑張りに感謝し、事業報告案、決算案を報告とします。

また令和6年度には介護報酬の改定等が控えており、介護現場の現状・実態を反映した要望等を今後も千葉県高齢者福祉施設協会等と共同し発信してまいります。

上記のとおり「コロナ感染対策」におわれ、かつ制限された1年であったが、この結果を活かして、通常の生活を取り戻す次年度であるよう職員と励みます。

「面会制限の解除」「各種行事の再開」「ボランティア等を含めた交流の再開」「個別計画に応じたサービスの充実」「ご家族のみなさんとの交流」「地域の皆さんとの交流」「職員・従事者の余暇の充実」などなど、決してこの3年の頑張りが無駄ではなかったといえる、次の1年を目指します。

そのためには、この厳しい変化の時代にあって「法人の安定した経営」「ご利用者、ご家族に満足いただけるサービスの徹底」「介護人材の確保と育成」「社会福祉法人の在り方の再構築」を中心に本年度も、ご利用者、ご家族、そして地域から信頼される法人を目指してまいります。

各事業所の事業報告は、以下の通りです。

## 【令和4年度 特養グリーンヒル 事業報告】

### 1) 目標稼働に対する実働状況

- 令和4年度に於ける特養・短期の目標値116に対し、年間を通し113.1という結果になり、目標値の数値低迷でしたが、令和4年度の入院延べ日数は207日、多種職の連携・協力の基ご利用者の健康管理が行えていました。平均介護度4.3 要介護度4・5割合81.3%の数値です。また、令和元年の退所者は19名、R2、24名・R3、25名でしたが、今年度、特に9月から2月にかけて、施設内でのコロナウイルス感染により、状態変化による急変や終末期の看取りケアを行い看取るご利用者も多数おり退所者は31名という結果となり、その現状の傾向は、今も継続している状況化ですが、しかし、コロナ渦の中においてもクラスターの対応や他の病院・施設でもクラスターなどによる、新規の長期・短期入所への受け入れが困難の中において、新規入所者は34名を受け入れ致しました。根本的には、R2.3での新規入所者の受け入れが退所者より数値的に下回った事が要因と考えられます。今年度は、今までの経過を踏まえて、病院や他事業所との連携しスムーズに入所に向けて段取りを行う事を重点に努力いたします。

長期入所年度入退所実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
新規入所者数	24	18	21	34
退所者数	19	24	25	31
延べ入院者数	882	681	197	207

### 2) 組織体制の強化

- WiFi環境が整い、特養の現場において、10月より、ブルーオーシャンによる記録を稼働開始。
- 職員全体の年齢層が高くなり、現場職員の疲労度が増している事もあり、職員の負担軽減と利用者が安心して生活が送れるよう環境整備・介護ロボットなどの設備の重要性を考えております。
- 医療的にニーズが高い利用者の入所が増えている事から、痰吸引などの医療に係る研修や看取り介護について再度の構築が必要と考えます。

### 3) 感染症対策

- コロナウイルス感染により、施設内でも2回クラスターを経験し対応しております。ご利用者に対しては隔離対応を行い、ADLの低下・褥瘡などの皮膚トラブルがみら

れており、現在も治療やリハビリを行っている状態。

介護職員も最小限の人数で、介護者自身も感染リスクが高い環境の中でご利用対応を行い、多種職の協力もあり短期間での終息する事が出来ました。

多種職との連携・情報共有(状態や対応方法)・医療との連携の重要性を感じております。徐々に施設内でも面会方法・外出などの緩和しておりますが、感染対策対応については、引き続き看護師と連携・協力し安全・安心して生活が送れるよう状態観察に努めます。

### 令和4年度 グリーンヒル特養・短期 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
月末利用登録者	98	102	104	103	105	99	100	98	101	98	100	100	1,208	100.7
入所延日数	2,916	3,060	3,073	3,200	3,260	3,088	3,063	2,962	3,081	3,060	2,797	3,048	36,608	3,050.7
入院延日数	3	21	19	26	31	35	28	31	4	0	2	7	207	17.3
利用実日数	2,913	3,039	3,054	3,174	3,229	3,053	3,035	2,931	3,077	3,060	2,795	3,041	36,401	3,033.4
1日平均利用者数	97.1	98.0	101.8	105.8	104.2	101.8	97.9	97.7	99.3	98.7	96.4	98.1		99.7
平均介護度	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3		4.3
(介護度4・5割合)70%	79.8%	85.7%	78.9%	77.8%	80.0%	80.6%	80.9%	81.3%	82.0%	82.8%	84.0%	83.1%		81.4%
新規入所者数	3	5	3	1	2	0	6	2	4	0	4	4	34	2.8
日常生活継続支援加算 (介護度4・5割合)70%	94.1%	85.7%	78.9%	77.8%	82.4%	78.6%	82.4%	85.7%	85.7%	84.6%	86.7%	84.2		778.6%
(内介護度4以上)	3	3	2	1	2	0	6	2	2	0	4	3	28	2.3
(内認知度Ⅲ以上)	3	3	2	1	2	0	5	2	2	0	3	3	26	2.2
退所者数	2	2	0	1	1	7	4	4	1	3	2	4	31	2.6
負担限度額認定者	52	49	53	51	49	51	48	46	46	46	49	51	591	49.3
短期請求件数	28	24	18	18	26	22	28	28	24	19	22	24	281	23.4
短期入所延日数	464	422	362	424	425	402	448	457	376	331	355	428	4,894	407.8
特養・短期合計延日数	3,377	3,461	3,416	3,598	3,654	3,455	3,483	3,388	3,453	3,391	3,150	3,469	41,295	3,441.3
特・短1日平均数(予算116人)	112.6	111.6	113.9	116.1	117.9	115.2	112.4	112.9	111.4	109.4	112.5	111.9		113.1
稼働率/120	93.8%	93.0%	94.9%	96.7%	98.2%	96.0%	93.6%	94.1%	92.8%	91.2%	93.8%	93.3%		94.3%
前年度稼働率	96.6%	98.5%	98.2%	97.2%	98.0%	98.3%	97.7%	94.4%	93.7%	94.0%	90.1%	91.4%		95.7%
前年度との比較	-2.8%	-5.4%	-3.3%	-0.4%	0.2%	-2.4%	-4.0%	-0.3%	-0.9%	-2.8%	3.7%	1.9%		-1.4%

# 令和4年度 すずらんフロア 理念等の振り返り

## I. 介護理念

- 季節ごとの楽しみを持ち、一日一日を過ごせるよう支援していく
  - ・職員も外出する機会を作るのを楽しみにしていたが、実際には困難で特に誕生日などで外出もできなかった。苑でできる事を考えながら、少しずつ実施することが出来た。
  - ・ご利用者とのコミュニケーション時間を設けるよう心がけたが、業務優先でなかなか継続的に実践することが出来なかった。

## II. ケアの重点項目

### 【メリハリのある生活】

- ご利用者一人ひとりのパーソナリティを尊重した介護を実践する。
- 散歩・外出・外気浴を行い、草花を飾り季節の移り変わりを感じることができる。
  - ・ご利用者とのコミュニケーションを図り、嗜好の把握、個別ケアに少しだが繋げる事が出来た。
  - ・少しずつだが、天気を見て外気浴や苑内散歩を行う事が出来た。
  - ・感染症終息後、身体機能が戻るよう機能訓練士と協力してケアの見直しが出来た。
  - ・コロナ隔離中でも体調の良い方は、普段と同じ対応ができた。

### 【ご利用者様との信頼関係】

- 日々の関わりの中でしっかりしたご利用者との信頼関係を築く。
- 企画・誕生会で本人の要求をくみ取り、かなえられるケアを実施する。
- ご利用者一人ひとりの個性を活かした介助を実践する。
  - ・ご利用者とコミュニケーションをとるよう心掛けていたが、継続的にできなかった。
  - ・業務の中で、関わる時間を増やしていく事が出来ればと思うが、笑い合いながら過ごす時間を多少なり作成する事も出来た。

### 【清潔感のある空間】

- 換気やテーブル・手指の消毒を行うことで感染症の発生を抑え、清潔で安心して過ごせる環境、空間をつくる。
- フロアの整理整頓を心がけ、ご利用者・職員共に常に動きやすい環境作りをしていく。
  - ・1月に感染症発生してしまったが、少ない期間で納める事が出来た。
  - ・居室の換気は心掛けて実施することができた。
  - ・場所によっては(特に食堂)冬はもちろん夏でもご利用者から『寒い』と訴えがあり、不十分だった。

### Ⅲチーム目標

- 同じような事故が起こらないようにご利用者一人ひとりの情報共有を徹底する。
- 感染症の発生に十分注意を払い、異常の早期発見・早期対応ができるようにする。
- 職員間の連携にて可能な限りのご利用者との時間を作成する。また時間をご利用者のために使用する。
  - ・情報共有・事故防止に努めてきたが、同一ご利用者の事故が続いてしまった。
  - ・環境・体調変化等に注意を払っていたが、感染症が発生してしまった。
  - ・ご利用者とだけでなく職員間でのコミュニケーション・連携を意識することにより時間を作成、外気浴・おやつ作り等に当てる事が出来た。

### ～総括として～

- ・コロナウィルス感染後、身体機能の低下がみられる方がおり、なかなか今まで通りの生活・をするのが難しかった。また、ご利用者に楽しんでいただく機会も少なかったなので、何ができるのか、喜んで頂けるのかを考え関わっていききたい。
- ・事故に関して、なぜ起こったのか・どうしたら防ぐ事が出来たのかを皆で考えて事故の発生防止・低減していききたい。
- ・ご利用者の満足度向上のため、もっとご利用者の希望に沿った事をしていけたら良かったと思う1年だった。今後、元の生活に戻っていただけるように支援すると同時に対応緩和後はニーズに合った支援・企画・外出等を実施していききたいと思う。

**季節の変化を感じていただけるような工夫を行い、ご利用者の満足度向上につなげていこうと思う。**

## 令和4年度 あやめフロア 理念等の振り返り

### I. 介護理念

- ご利用者一人ひとりに安心して快適・穏やかに過ごしていただく
  - ・看取りケアを実施して、穏やかに最期を向かえていただけるように心掛けていた。
  - ・看取りの振り返りが充分できていなかった。
  - ・1月に新型コロナウイルスの集団感染が発生してしまった。

### II. ケアの重点項目

#### 【コミュニケーション】

- ご利用者を主役として声を掛けて、ご利用者の反応を引き出し活性化につなげる。
- ご利用者の状態や希望に応じた余暇活動時間を作成し、楽しみを持って日々をすごしていただく。  
※外気浴・散歩・レクリエーション・外出(可能であれば)等の実施
- 日々のコミュニケーションの中でご利用者の希望を引き出しかなえられるように努力をする。
  - ・担当ご利用者への声掛けを行い反応していただけた。
  - ・本人の希望を十分に聞き出す事が出来たかはわからない。
  - ・誕生会はコロナ環境で制限が掛かっている中で、本人の好みを考えて実施してきた。
  - ・コミュニケーション不足な点があり、対応がバラバラになってしまった事例もあった。

#### 【環境】

- 清潔で快適な環境を維持すると同時に、感染症リスクの少ない状態で過ごしていただく。
- 上記環境と共に普段の飾りつけやイベントの装飾を行い居室の空間作りに努める。
  - ・環境整備を心掛けて注意してきたが、コロナ発生後すぐに広がってしまった。
  - ・飾りつけに関しては春になったら花・秋にハロウィン・冬にクリスマスとささやかではあるが行う事が出来た。

#### 【身体ケア】

- ご利用者の変化に準じたポジショニングを行い、皮膚トラブルや進行の予防及び早期改善を行う。
- 離床時間を設ける事により廃用症候群の予防を図る。
- ご利用者の状態を多職種間で情報共有や協議を行い、よりよいケアができるようにする。
  - ・皮膚トラブル発生しているが、ポジショニング・除圧・体位交換に努めてきた。
  - ・十分な離床時間を設ける事はできなかった。
  - ・コロナ緩和されてから少しずつ外気浴等、意識的に取り組んだ。
  - ・情報共有にばらつきがあり、同職種・他職種共にコミュニケーション不足な事もあった。

### Ⅲ. チーム目標

- 日々のご利用者との関わりの中で変化に気付き、状態の変化に柔軟に対応していく。
- 職員一人ひとりが互いの事を考えて連携を図り、ご利用者により良い時間を過ごして頂けるようする。
- 最後の時まで穏やかに過ごしていただけるような環境作りと安楽な介護を心掛ける。
  - ・ケアの中で異常の早期発見・報告に努めた。
  - ・コミュニケーション不足な事も有ったが、職員同士、横のつながりを意識しながら業務に当たれた。
  - ・穏やかな最期を迎えられるようにご利用者に状態に合わせたケアを心掛けた。

### ～総括として～

- ・年始めに職員同士意見を出し合いながら、ケアや他の取り組みを始めようとしたが、コロナウィルスの集団感染が発生してしまった。しかし、介護職員のみならず苑全体で取り組む事により最小限に留められたのではないかと思う。来年度は季節の企画(外出等)も行っていきたい。
- ・ご利用者に快適に過ごしていただけるような環境の整備に努めていたが、もっと改善できる点もあるので、引き続き安心・安全・快適に過ごしていただける環境づくりに努める。
- ・ご利用者の変化の早期発見により重症を回避するため、ケアの中で些細な気づきを大切に支援していく。
- ・今後も職員同士助け合いながら良いサービスに繋げていきたい。
  
- ・看取りに関してあやめは看取り対応フロアなので、今後も看取りに対して取り組み穏やかな最期を迎えられるように支援していきたい。



## 令和4年度 大和フロア 理念等の振り返り

### I. 介護理念

「健康に過ごせ、明るく、元気でいられる日々を～ご利用者に寄りそって、平穏な日々を送ってもらう～」

### II. ケアの重点項目

#### 【日常生活に楽しみを】

- ・音楽療法は楽しみの1つとしてご利用者に定着していた。また、職員配置が増え午後の体操を行えた事で、ご利用者に浸透していたのが良かった。
- ・毎月の企画、誕生会企画はご利用者の意向や思い、季節にそった企画が行えていた。
- ・コロナ対応で外に行けない事もあり、散歩などで外気に触れられる機会が少なく、ご利用者にストレスを与えてしまっていた。
- ・四季を感じられる空間づくりができていなかった。

#### 【安心安全な空間を】

- ・離床後、ご利用者のベッドメイキングを行い、気持ち良く過ごして頂けるよう心掛ける事ができた。
- ・居室、廊下の換気を適宜行い、手指消毒もきちんと行う事で感染症対策を日常的に意識して行う事ができた。
- ・コロナ感染後も、ご利用者のADLが著しく低下する事もなく多種職との連携が速やかに行えていた。
- ・情報発信は行なえていたが、職員間での意識の捉え方が違う為か統一ケアが行えていなかった。
- ・ご利用者とのコミュニケーションが少なく、言葉遣いを意識せずに話をしてしまう事があった。

### ～総括として～

- ・大和フロアはコロナ感染もあり、ご利用者のADLも低下されることを懸念されたがコロナ収束後も、職員1人ひとりがご利用者の状態を考えながら行動し、著しくADLが低下する事なく1年を過ごすことができた。事業計画の目標に沿って意識や行動に移せており、疑問や改善に向けて早期に動いていた。

これからも1人ひとりがご利用者のことを考えて行動し、安心安全に暮らせる環境を提供していきたい。

## 令和4年度 撫子フロア 理念等の振り返り

### I. 介護理念

「ご利用者の趣味、嗜好をみつけ楽しんで頂く」

### II. ケアの重点項目

#### 【個々に合った活気ある生活の提供】

- ・ 出来たこと  
： 本人の意向に沿った誕生会が実施できていた。
- ・ 出来なかったこと  
： 手作りおやつはご利用者の希望に沿っていなかった。  
： 個々のご利用者の趣味、嗜好を知る事が出来なかった。
- ・ 総括  
： ノートパソコンのツール(検索機能や YouTube)を活用する事で、ご利用者とのコミュニケーションが円滑に図れたと思います。ご利用者のアセスメントをよく読み・理解・把握しケアに繋げていきたい。

#### 【ADLの維持】

- ・ 出来たこと  
： 午後の体操はよく出来ていた。
- ・ 出来なかったこと  
： 朝の集いが行えていなかった。  
： 散歩が行えていなかった。
- ・ 総括  
： 特に昼食前に業務が集中してしまい、朝の集いが行えない事がしばしみられた。  
業務の分散を図り、朝の集いを行うという意識に繋げていきたい。

#### 【安心、安全な環境】

- ・ 出来たこと  
： 事故発生後、スムーズに職員間・会議で話し合い改善策を統一し対応がとれていた。  
： 居室、廊下の換気を適宜行い、手指消毒もきちんと行う事で感染症対策を日常的に意識して行う事ができた。
- ・ 総括  
： コロナ感染・疑いで隔離対応もあり、ご利用者・職員に負担があった。今後も感染対策を意識しご利用者が安心して生活できるよう心

## 令和4年度 3丁目フロア 理念等の振り返り

### I. 介護理念

#### 【季節を感じられる生活】

- ・新型コロナウイルス感染症対策により、外出制限があった為、外出に関しては実施できなかった。毎月のお楽しみ会企画で、季節感を演出、ご利用者様に季節感を味わって頂いた。その中でも、ご利用者様の目の前で、ご利用者様と一緒に、旬の食材を使っておやつ作りを行う事で視覚・嗅覚・触覚・聴覚・味覚において季節感を感じて頂いた。
- ・感染症対策が緩和され次第、今年度実施できなかった「外出」を実施できるよう企画の実施を行い、ご利用者様に喜んで頂けるよう努めていく。

### II. ケアの重点項目

#### 【感染症の発生を予防します】

- ・新型コロナウイルスに罹患した、ご利用者様は0名であった。職員の感染は数名であった。
- ・その他の感染症に関しては0名であった。
- ・新型コロナウイルスに関しては感染症対策が緩和されても、ご利用者様及び職員全員が体調管理を行うと共に基本的な感染症対策（手洗い・うがい・手指消毒）を継続する。ご利用者様の命を預かっているプロとしての自覚を持ち、感染症予防に努めていく。
- ・その他の感染症に関しても、基本的な知識。技術を用いて、感染症の発生予防に努めていく。

#### 【事故、転倒を減らします】

- ・ご利用者様の ADL や認知症高齢者生活自立度が、昨年度と同じではないので、一概に減少したとは言いきれないが、リスクマネジメント委員会を中心に「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」を活用、事故防止に努めた。
- ・引き続き来年度も、事故防止に努め、ご利用者様が安心・安全に生活できる環境作りを行っていく。

#### 【丁寧さを心掛けた言葉遣いをします】

- ・常にご利用者様の事を気遣い、敬意を持って丁寧にコミュニケーションを実践できたが、多忙な業務際、入居者様の対応が重なってしまった際など、丁寧さに欠ける部分が見られていた。
- ・長年一緒に生活する中で、慣れ親しみがあるコミュニケーションで良いのだが「親しき中にも礼儀あり」「初心忘れるべからず」と言った言葉もあるように、今後も TPO を踏まえ、敬意を持ってご利用者様とコミュニケーションを図っていく。
- ・忙しい業務の中でも、立ち止まり、目線を落とし、スピーチロックや虐待が疑われるような声掛けを絶対しない事を、職員全員が学び、実践していく。

### Ⅲ. チーム目標

#### ○職員間での情報の共有を行い、より良い、統一したケアが行なえるようにする。

- ・手書きの記録から、ブルーオーシャンシステムの導入に代わり、最初は戸惑いや混乱が見られたが、現在は職員全員が慣れている。又、手書きの連絡帳、日々のコミュニケーションとブルーオーシャンを活用する事で、情報共有が更に向上したと考察できる。
- ・情報の発信は出来ているが、全職員が理解しているのか、確認していく必要がある。又、ケアの向上を図る為にも、全職員の介護技術及び介護知識の向上は必須である。  
今後も、日々のケアの中で、ご利用者様から学び、自己研鑽に努めていく。

#### ○担当、ご利用者と多くコミュニケーションとり信頼関係を築いていく

- ・各居室担当者は、ご利用者様とコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めてきた。  
コミュニケーションを実践する中で、担当利用者様の要望を把握し、ケア改善に努めた。
- ・今後も引き続き、日々の生活の中でご利用者様の要望・要求を把握し、ケア改善に努めていく。  
又、ご家族様との信頼関係構築が感染症対策により実践できていないので、来年度はご家族様とも信頼関係の構築に努めていく。

#### ○ご利用者本位の誕生会を実施していく

- ・各居室担当者が、ご利用者様の生活歴・好み・要望を把握し企画を実施できた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策により、ご家族様と一緒に祝い事が出来なかったため、来年度は、ご家族様と一緒に誕生会をお祝いできるよう企画を実施していく。

令和4年度新規入所者、34名。

看取りを含め、永眠された方は、31名。

1年間で、入院8名、うち軽快退院6名。

ノロウイルス、インフルエンザ、疥癬等の罹患者はなし。

肺炎球菌ワクチン予防接種該当者11名実施。今後も継続していく事とする。

① 新型コロナ感染者 8/30～ 入所者 10名、職員 2名 計 12名

② 新型コロナ感染者 1/1～ 入所者 35名、職員 15名 計 50名

①、② 2度のクラスター発生となってしまった。

保健所の指示のもと、健康管理を実施し、嘱託医の協力（コロナ治療薬処方含め）もあり、必要最少限の隔離期間をもって収束する事が出来た。

しかし、高齢者で持病もあり、ベッド上での隔離生活を強いられる利用者は、身体的精神的にも機能低下は著しく、改善するまでには、かなりの時間を要した。

今後も、クラスター発生時の様々経験を、忘れる事なく、気を引き締めていきたいと思う。

また、基本的感染症対策は、継続しつつ、各自の体調管理にも、責任をもって気を付けていきたいと思う。

今年度、千葉県看護協会主催の感染症対策出向支援の申し込みを行ない、感染症対策に必要な知識、を再確認するとともに、安全、安心なケアの提供の講義を、していただいた。

時期的に1回目のクラスター発生後の日程となってしまったが、振り返りを中心に、良かった点、改善点を話し合い、再認識する事でとても、有意義な勉強会となった。実際のフロアを、想定しながらまわることでより一層、現実的なものとなった。2回目のクラスター発生時には、少なからずも対策の参考になったと考える。

今後も学ぶ姿勢を大切に、意識を高めるべく努力は必要だと思う。

# 令和4年度 管理部栄養課 事業実績報告

## 栄養課の理念

- ・ご利用者の健康状態や身体状況に応じた栄養管理(栄養ケアマネジメント)サービスを提供し、多職種と協力して行い、個人にあったADLの維持・向上に努めます。
- ・ご利用者にふさわしく安全で質の高い食事サービスを提供します。

令和5年度  
利用者食事摂取推奨量  
(2020年度版、日本人の食事摂取基準に準拠)

GH 令和5年 4月1日 現在	
エネルギー	1660Kcal
蛋白質	62.3g

GH八千代台 令和5年 4月1日 現在	
エネルギー	1745Kcal
蛋白質	65.4g

令和4年4月～令和5年3月における  
利用者の実態

令和5年度 グリーンヒル入所計画				令和5年度 グリーンヒル八千代台入所計画			
男性	女性	平均		男性	女性	平均	
入所者 17名	81名	81.1歳		入所者 5名	22名	89.2歳	
年齢 78.5歳	87.8歳	83.1歳		年齢 88.8歳	89.6歳	89.2歳	
介護度 4.1	4.4	4.3		介護度 4.3	4.4	4.3	

令和4年度 グリーンヒル入所者実績				令和4年度 グリーンヒル八千代台			
男性	女性	平均		男性	女性	平均	
入所者 16名	81名	84.1歳		入所者 5名	24名	88歳	
年齢 81.2歳	87.0歳	84.1歳		年齢 86.6歳	89.4歳	88歳	
介護度 3.7	4.3	4.1		介護度 4.4	4.4	4.4	

令和3年、令和4年における  
食数実績・目標数

食数実績	グリーンヒル		合計	グリーンヒル八千代台		合計	グリーンヒル 特養・通所 グリーンヒル 八千代台特 養・小規模多 機能	総合食数
	利用者	職員		利用者	職員			
令和4年度	129037食	8874食	137911食 △4471	57383食	5562食	62945食 △245		200856食 △4716
令和3年度	131935食	10447食	142382食	57513食	5677食	63190食		205572食

フードサービス形態  
クックチル  
A セントラルキッチン

給食業務完全委託方式  
A グリーンヒル特養・通所  
グリーンヒル八千代台特養  
B 給食業務直営方式  
グリーンヒル八千代台・小規模多機能

A方式の帳票類は別途区分管理とする  
・災害時発生時、食中毒・感染症発生時、グリーンヒル・グリーンヒル八千代台に属するマニュアルに準拠する

非常用食品の確保

- ・災害対策マニュアル策定
- ・天災害時の調理を必要としない食事サービスとして備蓄食品
- ・大量調理施設マニュアルに準じる
- ・食品衛生法の衛生安全管理の維持徹底(HACCP方式 R3.6月)
- ・特別な個別膳(ミキサー食)(やわらぎ膳 有料)看取り膳
- ・保存食・公衆衛生の実施(厨房内消毒4回/年・クリスタップ 1回/年)
- 院外調理(ひまわり)→小規模施設(サテライトキッチン)
- 配膳・調理従事者の衛生管理(細菌検査 18回/年)
- ・備蓄食品(非常用食品)の保管・資料 献立表策定している
- ・特定給食施設栄養管理 巡回指導実施 千葉県習志野福祉センター グリーンヒル R4.10.17  
グリーンヒル八千代台R5.1.16
- 感染症対策マニュアル策定R3

行事食

- ・施設諸行事に伴う食事支援
- ・敬老会祝い膳  
グリーンヒル 利用者109食 職員 59食  
グリーンヒル八千代台 利用者48食 職員9食
- ・嗜好(刺身)1名 個人管理

会議

- 栄養委員会  
・給食会議(食事委員会と調整連携)  
・NCM会議(低栄養者及びケアプラン委員会と合同)
- グリーンヒル  
定例 第3木曜日 午前9時30分～ 会議室 12回/年  
グリーンヒル八千代台  
日時不定期 1回/月

栄養ケア・マネジメント

- 基本方針  
I. 栄養ケアマネジメント 全利用者実施  
4回/年スクリーニング実施
- II. 経口維持実施  
経口移行 I、II  
(医師・歯科医師による評価者)
- III. LIFE厚生労働省へ送信  
科学的介護情報システム(LIFE)  
栄養マネジメント強化加算  
管理栄養士 新規1名配置
- ①栄養マネジメント強化加算(管理栄養士体制整備 GH3名 GH八2名)  
・LIFEデータ→厚生労働省提出  
GH 3月、6月、9月、12月(基準3か月毎)  
GH八 毎月(情報提供任意)  
・IT化ブルーオーシャン情報共有  
・生活と身体の状況記録(介護・看護・栄養記録)  
内容 身体計測、摂取目標量、摂取状況調査項目  
栄養アセスメント・栄養ケア計画書(施設版)  
\*食事調査表は利用者の共有個別資料とする。  
(但し、持ち出し禁止、厳守)
- ②低栄養リスクの改善として、栄養計画による  
・食事・栄養管理、評価判定を行う。  
・低栄養状態の改善目標として、栄養強化食品を推奨する。(但し、個別管理品は個別負担とする。)
- ③看取り(EOL食 I、II、III期)実施

令和4年度の報告及び考課

- ①教育研修計画  
・栄養ケアシステムの向上
- ②所轄保健所の巡回指導実施
- ③グリーンヒル(CK)とグリーンヒル八千代台(SK)の給食はデリバリー方式、グリーンヒル八千代台  
・調理チーム結成(小規模多機能 サテライト グリーンヒル南デイホーム)(R4.5月廃止)  
方式(CK)(SK)との業務は分離独自型  
供食対象:利用者食・職員食  
グリーンヒル南デイホーム  
グリーンヒルから グリーンヒル八千代台へ移管
- ④施設管理栄養士のシフト体制  
・グリーンヒル 8:30～17:30(2名)9:30～16:30(1名)  
・グリーンヒル八千代台 8:30～17:30(2名)
- ⑤給食栄養利用者向け広報誌発行  
“食&栄養”おいしいお知らせ 4回/年  
聖徳大学人間栄養学部 3学年 3名(6月)  
3名(10月)
- ⑥臨地実習実施  
・利用者全員の看護、介護、栄養の情報伝達のカンファレンスに出席した  
・給食栄養管理の改正に伴う帳票管理 GH、GH八事業所 巡回指導の指摘なし  
・給食経営管理部門としてクックチル方式全面委託化  
業務委託、食材料費委託  
及び院外調理(ひまわり)を導入した小規模多機能クサブ方式  
・CKグリーンヒルのイベント、栄養委員会など  
グリーンヒル八千代台(SK)と連携・提携区分、分離区分を共有化した  
※CK=セントラルキッチン SK=サテライトキッチン

## 令和4年度事業報告グリーンヒル居宅介護支援事業所

### 1. 目標に対して稼働件数

- ・ 計画作成数・・・給付管理件数 128.6名（月平均）  
総合事業委託請求件数 24.5名（月平均）
- ・ 目標稼働率・・・96.9%。

### 2. 事業継続計画（BCP）について

計画書は策定できているが、緊急性の高い利用者に対しての準備が整いきれていない。また地域との連携まで至っていない。

### 3. 情報共有及びスキルアップについて

地域のケアマネのスキルアップとして他事業所との合同事例検討会を開催。

### 4. ICT（タブレット）を有効に活用し業務短縮となっている。

### 5. コロナ感染症の影響

- ・ 自身の利用者が熱発し、受診に付き添わなければならないケースが3件ほどあり、その都度防護服等を着用し行った。実際陽性だったケースもあったが、担当ケアマネが感染することなく業務継続できた。（苑で抗原検査が行えたことは心強かった）
- ・ 独居利用者や高齢世帯で理解力が少し低下している利用者に対してのワクチン対応等、本来の業務以外の仕事が多くあった。
- ・ 各サービス調整で難航することなく行うことができた。自事業所の協力が大きかった。
- ・ 末期癌と診断された利用者が自宅での看取りとなるケースが増え、ケアマネ依頼が多くあり、短期間での調整に追われた。（コロナのため入院中は面会できないことが原因と思われる）

### — 総括 —

目標件数に関しては達成できなかったが、前年度より件数は増加できた。コロナ禍の中、ケアマネの家族やケアマネ自身も感染しながらも、後遺症もなく業務が遂行できたと思う。令和5年度は他のケアマネとの交流や研修の機会もより増えると思うので、多くの情報を得てスキルアップに繋げていきたい。

# 令和4年度事業報告

## グリーンヒル通所介護

### 1】 令和4年度利用状況（本体通所介護）

- 今年度は、一日の平均利用者数25名を目標にサービスを行ってまいりましたが、一日の利用者の平均としては22.0名と前年度より0.7名、年間の延べ利用者数としては200名程減となってしまいました。

一年間での新規利用者数は、23名で登録いただいていたのですが、利用中止者の人数が31名となってしまい、登録数を増やす事が出来ず厳しい現状でありました。 コロナ感染症の状況も、一年通して少なからずあったとは感じますが、特に12月・1月と通所介護、特養でのクラスター発生により、特にその二か月が利用減となってしまった。ただ、ご利用者・ご家族・各他部署の協力により、休まず事業を継続できた事は、今後のサービスに繋がるものと感じています。

来年度におきましては、ウィズコロナと言うことで、少しずつ以前のよう、季節行事やボランティア等の受け入れ、様々なプログラムなども検討し行っていきながら、前年度同様に新規利用者の獲得に職員全体で努めたいと思います。

### 2】 令和5年度利用者人数目標 通所介護：一日平均25名

令和4年度 グリーンヒル デイサービス 実績報告

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
登録人数	69	69	67	68	68	68	66	65	64	64	64	62	794.0	66.2
利用者数	67	65	63	64	62	63	63	60	60	58	58	56	739.0	61.6
新規利用者	3	3	1	3	2	3	2	2	2	0	2	0	23.0	1.9
登録中止利用者数	1	2	4	4	2	4	4	3	4	1	3	4	36.0	3.0
運営日	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310.0	25.8
延べ人数	594	617	611	579	575	611	642	560	457	467	526	577	6,816.0	568.0
総合事業人数	3	4	4	4	3	2	3	3	3	1	1	1	32.0	2.7
													0.0	0.0
要介護人数	64	61	59	64	59	61	60	57	57	57	57	55	711.0	59.3
合計	67	65	63	68	62	63	63	60	60	58	58	56	743.0	61.9
平均介護度	2.0	2.0	2.0	2.0	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.2	2.1	2.2		2.1
1日平均利用者数(予算26人)	22.8	23.7	23.5	22.2	21.3	23.5	24.7	21.5	17.6	19.5	21.9	21.4		22.0
前年平均利用者数	22.4	24.1	23.8	23.3	22.5	22.4	23.1	24.0	23.4	20.1	21.6	22.1		22.7
介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
要支援1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
要支援2	2	3	3	3	3	2	2	3	3	1	1	1	1	27
要介護1	18	19	18	17	14	15	16	15	15	15	15	14	191	
要介護2	27	24	22	23	24	25	24	24	23	22	22	22	282	
要介護3	15	14	13	13	13	14	14	13	13	12	14	12	160	
要介護4	3	2	3	3	2	2	2	3	3	5	4	5	37	
要介護5	1	2	3	4	6	5	4	2	3	3	2	2	37	
人数	67	65	63	64	62	63	63	60	60	58	58	56	739	



## 令和 4 年度訪問介護事業報告

### 【1】令和 4 年度の状況

令和 4 年度は、月 62 人目標としていましたが、月 55 名前後の利用となりました。

前年同様、新規利用者の受け入れはしていましたが、訪問回数の多い方の利用終了や総合事業の利用希望が多く、なかなか売り上げ増には結びつきませんでした。

登録ヘルパーの高齢化により、身体介護については正職員でほとんどを回している為、利用人数を増やせない状況が続いています。

通院乗降の職員も 1 名体制なので、受けられる件数には限りがありました。

新型コロナウイルス対策については、PCR 検査への協力依頼、ワクチン接種の為の時間調整や休日調整、マスクや衛生用品を可能な限り配布し、現場のヘルパーが困らないように対応しました。

BCP 策定については、現在作成中です。

### 令和 5 年度の目標

今年度においても、出来るだけ新規ケースの受け入れを行っていきたいと考えています。今年度の目標値としては、月の目標を 65 名として職員全体で取り組んでいきたいと考えています。

ヘルパー年齢の高齢化もあり、事業継続のためには常勤・パート・登録ヘルパーの採用をお願いしたいと思います。

毎月行っているヘルパー研修も、実技指導や講義の時間を多く取り、充実させていく予定です。

令和4年度研修報告

研修月	研修内容（予定）	受講 予定	実施日	実施内容
4月				
5月	プライバシー保護・ 個人情報取り扱い	s 44	5/30	※S44 プライバシーの保護・個人 情報取り扱いの理解
6月	倫理・法令順守	s 45	6/27	※S45 倫理・法令順守の理解
7月	介護従事者の接遇	s 46	7/28	※S101 介護従事者の接遇に関 する理解
8月	事故防止の知識	s 49	8/29	※S104 事故防止の理解
9月	緊急時対応の理解	s 50	9/27	※S50・S105 緊急時対応の理 解
10月	感染症予防とまん延 防止	s 52	10/28	※S107 感染症・食中毒の予防 及び拡大防止の知識
11月	食中毒の予防とまん 延防止	s 53	11/28	※S108 認知症の理解・認知症 ケアの基本
12月	認知症ケアの理解①	s 54	12/26	※S48 虐待防止に関する理解
1月	認知症ケアの理解②	s 54	1/27	※S51・S106 非常災害時の対 応
2月	自己評価		2/27	自己評価の実施
3月	事業報告・次年度の 事業計画について		3/28	同左

※お茶の水ケアサービス学院フォローアップ研修受講

【令和4年度 事業報告】

特別養護老人ホーム グリーンヒル八千代台  
短期入所生活介護 グリーンヒル八千代台

1. 目標稼働・目標施策（令和4年度）の達成状況（○数字はR4事業計画の原文）

- ①稼働率（長期＋短期）：長期入所者の安定稼働（入院者低減・空床期間短縮）。  
・年間稼働率 99.7%目標（長期+短期：39床に対し 38.87名以上の稼働）  
⇒【達成】月平均 38.97名（年間稼働率 99.94%）  
・特定入所者受入（6名以下設定）  
⇒【未達】年間平均 6.2名（R4.3.31時点：5名）
- ②日常生活継続支援加算の算定継続（46単位/日）  
⇒【達成】下記要件を算定根拠とし継続  
・新規入所者の内（前12ヵ月）介護度4・5の割合：70%以上  
…年平均 95.8%（長期入所者全体 年平均介護度 4.39）  
・新規入所者の内（前12ヵ月）認知症度Ⅲ以上の割合：65%以上  
…年平均 71.1%
- ③認知症専門ケア加算（Ⅱ）の算定継続（4単位/日）。  
⇒【達成】認知症専門ケア加算該当者：20/27名（全体 74%）（3月末時点）
- ④施設内での看取り介護を継続して推進し、看取り介護加算の算定継続。  
⇒【達成】退所者 8名中 6名（75%）の看取り介護を推進。
- ⑤褥瘡マネジメント（13単位/月）・排せつ支援（15単位/月）両加算の算定継続。  
⇒【達成】入所全利用者対象。LIFEを用いて報告を提出。
- ⑥栄養マネジメント強化加算（11単位/日）の算定また経口維持加算の算定継続。  
⇒【達成】入所全利用者対象。LIFEを用いて報告を提出。
- ⑦口腔衛生管理加算（Ⅱ）（90単位/月）の算定継続。  
⇒【達成】提携歯科（寒竹歯科医院）との連携。LIFEを用いて報告を提出。
- ⑧個別機能訓練加算（Ⅱ）（20単位/月）の算定継続。  
⇒【達成】入所全利用者対象。LIFEを用いて報告を提出。
- ⑧短期入所生活介護の加算算定継続  
⇒【達成】看護体制加算・認知症専門ケア加算・機能訓練体制加算（個別機能訓練）等
- ⑨介護ロボット（見守り支援・インカム等）を用い、生産性の向上とコストカット（介護資材費用・人件費用等）を推進。  
⇒【令和5年度より開始】令和5年3月末 見守りカメラ等 ICT 導入完了。
- ⑩サービス担当者会議及び多職種カンファレンスの強化継続。  
⇒【達成】コロナ禍にあり一部制限は設けたものの、状態変化時には担当者会議を開催し、ご利用者の状態像についての共有と意向を確認。看取り介護の推進を図る等、加算の算定に繋げた。下半期、外出等制限の緩和に踏み切り、各専門計画（介護・看護・機能・栄養）の再作成を図る等で連携。利用者のADL維持に尽力した。

2. 今年度の実績

①介護職員等の健康管理

- ・夏季には施設内でのコロナ感染症流行があったものの、感染防止策に対する試行錯誤を繰り返し実践。感染者を最小限に留め、運営を継続することができた（抗原検査により体調不良者（感染者含）の入館を未然に防ぐことが可能となっている）。

### ②稼働率（長期＋短期）の安定

- ・利用者の健康管理（検温・肺炎予防＋尿路感染症予防等）またADLの維持に尽力。加えて、積極的な困難ケース等受け入れを図り、稼働率の安定に繋げることができた。

### ③地域活動・地域貢献

- ・ふらっとホームの再開、地域活動サークルまた近隣教育機関への専門職派遣等、感染症流行前（全国的）に近い関係機会を設けることができた。

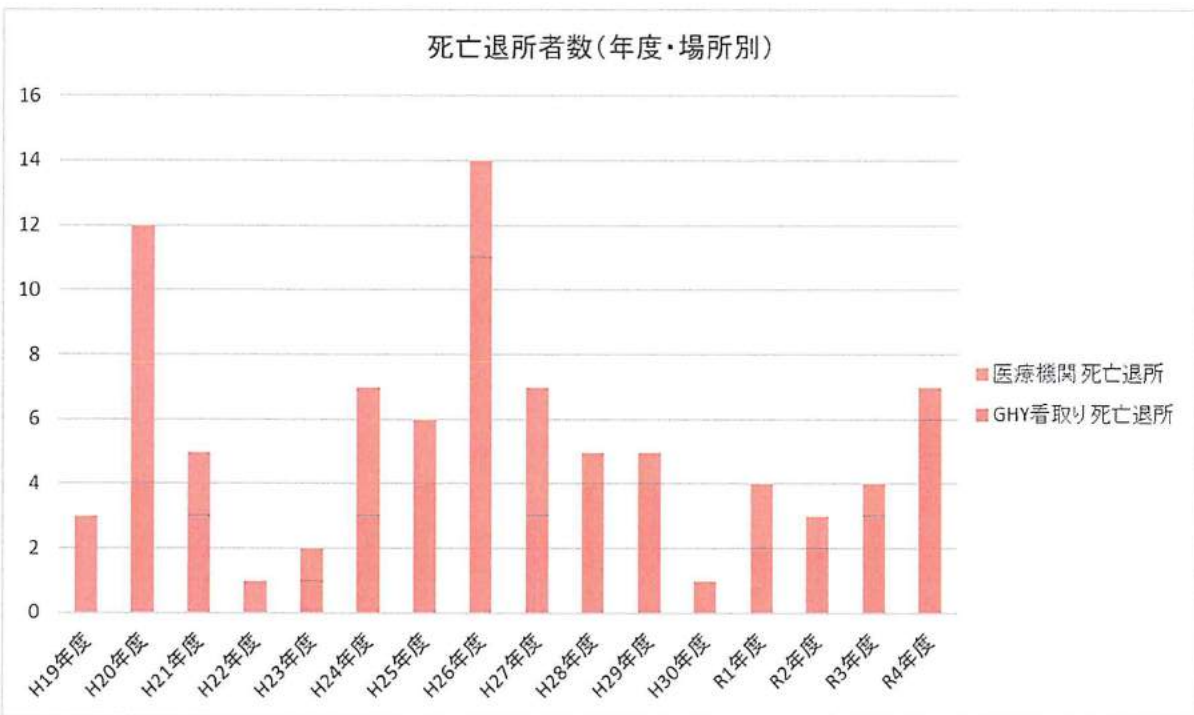
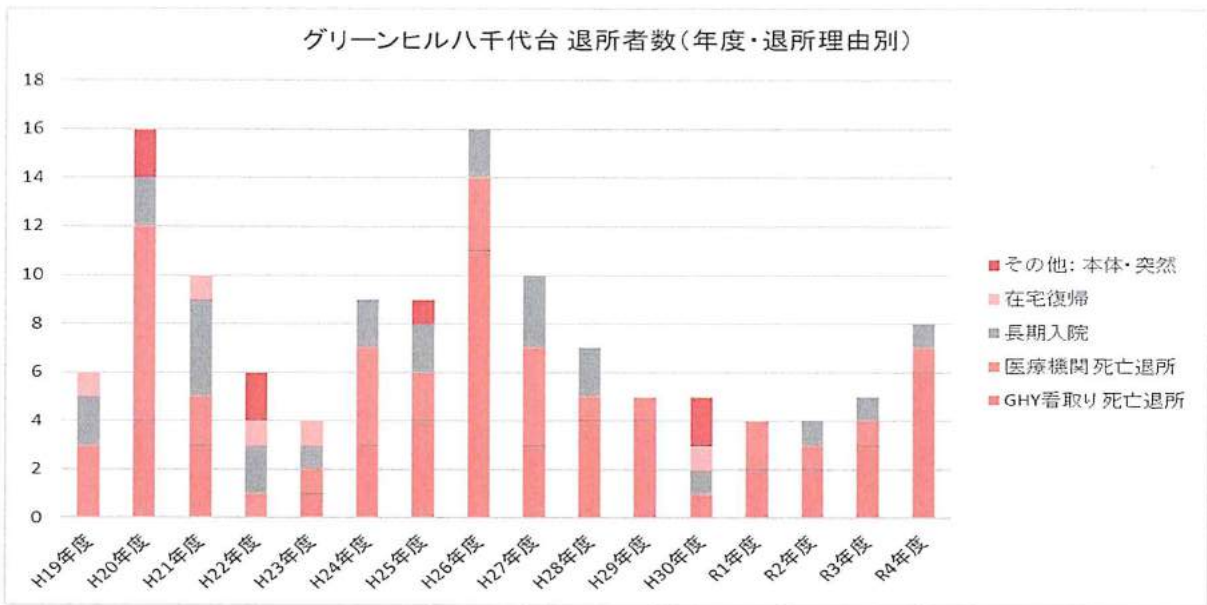
## 3. 令和4年度 特養・短期の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年
月末利用登録者	27	26	28	28	28	29	28	28	28	27	28	27	27.67
入所延日数	832	839	815	868	868	856	895	840	868	855	781	857	10174
入院延日数	2	6	16	20	29	56	6	0	20	40	3	20	218
利用実日数	830	833	799	848	839	800	889	840	848	815	778	837	9956
平均介護度	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4	4.4	4.39
(介護度4・5割合)70%	93.1%	88.4%	89.3%	89.3%	89.3%	90.1%	89.3%	89.3%	89.3%	93.1%	93.1%	93.1%	90.6%
新規入所者数	0	1	2	0	0	1	1	0	0	0	1	0	6
（内介護度4以上）	0	1	2	0	0	1	1	0	0	0	1	0	6
（内認知度Ⅲ以上）	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	4
退所者数	2	2	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	8
負担限度額認定者	7	7	7	7	7	7	7	5	5	5	5	5	6.17
短期請求件数	22	24	22	19	18	20	19	20	23	25	22	26	21.67
短期入所延日数	341	375	371	361	360	369	322	341	357	383	314	372	4266
特養・短期合計延日数	1,171	1,208	1,170	1,209	1,199	1,169	1,211	1,181	1,205	1,198	1,092	1,209	14,222
特養・短期1日平均数	39.03	38.97	39.00	39.00	38.71	38.97	39.06	39.41	38.87	38.64	39.00	39.00	38.97
稼働率	100.1%	99.9%	100.0%	100.0%	99.3%	99.9%	100.2%	101.1%	99.7%	99.1%	100.0%	100.0%	99.94%

### 【資料】

『令和4年度 理由別退所者数（看取り介護等履歴（開設当初より））』

	GHY看取り 死亡退所	医療機関 死亡退所	長期入院	在宅復帰	その他： 本体・突然	合計			
H19年度	0	3	2	1	0	6	H19.10.1	～	H20.3.31
H20年度	4	8	2	0	2	16	H20.4.1	～	H21.3.31
H21年度	3	2	4	1	0	10	H21.4.1	～	H22.3.31
H22年度	0	1	2	1	2	6	H22.4.1	～	H23.3.31
H23年度	1	1	1	1	0	4	H23.4.1	～	H24.3.31
H24年度	3	4	2	0	0	9	H24.4.1	～	H25.3.31
H25年度	4	2	2	0	1	9	H25.4.1	～	H26.3.31
H26年度	11	3	2	0	0	16	H26.4.1	～	H27.3.31
H27年度	3	4	3	0	0	10	H27.4.1	～	H28.3.31
H28年度	4	1	2	0	0	7	H28.4.1	～	H29.3.31
H29年度	4	1	0	0	0	5	H29.4.1	～	H30.3.31
H30年度	1	0	1	1	2	5	H30.4.1	～	H31.3.31
R1年度	2	2	0	0	0	4	H31.4.1	～	R2.3.31
R2年度	2	1	1	0	0	4	R2.4.1	～	R3.3.31
R3年度	3	1	1	0	0	5	R3.4.1	～	R4.3.31
R4年度	6	1	1	0	0	8	R4.4.1	～	R5.3.31



#### 4. 次年度の課題

以下3点を課題として取り上げ、目標として継続また発展へ取り組みたい。

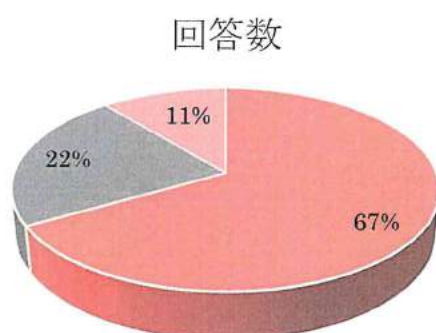
- ① 稼働率(長期+短期): 入所者の安定稼働(入院者数低減・空床期間短縮)
  - ・誤嚥性肺炎防止(口腔ケア・嚥下評価等)、脱水・尿路感染症に対する配慮(飲水・清潔保持)に努め、入院者数の低減に努める。
- ② 感染症防止への取り組み
  - ・感染症における標準予防策を徹底。各職員が引き続き健康管理に意識を向け、通常運営の継続に努める。万が一感染症が発生した場合、拡大防止に必要とされる対応策を迅速に実践できるよう、各職員がその方法を周知する。
- ③ QOLの向上に努める
  - ・状況下に応じた標準予防策に則った上、外出や外食等のアクティビティまた外部交流や家族面会等でその方の認知面・精神面に働きかけ、「笑顔」を満足と説き、快適に過ごすことへのアプローチを図る。

## 令和4年度 つつじ・ばらユニット年間理念 振り返り

(総数9名)

### I. 介護理念

問1) ご利用者一人一人に合わせたケアを実施します



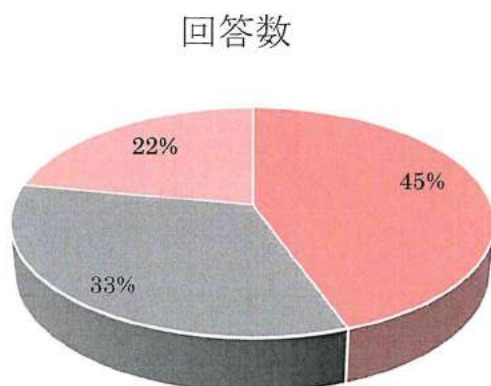
- 1. 完璧に出来た
- 2. ほぼ出来た
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり出来なかった
- 5. 出来なかった
- 6. 無回答

選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	
2. ほぼ出来た	6
3. どちらとも言えない	2
4. あまり出来なかった	1
5. 出来なかった	
6. 無回答	

- ・職員みんなご利用者の為に個別ケアがすごく出来ていたと思います。ご利用者に耳を傾けコミュニケーションを取りながらケアを行っていて良かったと思う。
- ・出来る限り要望に沿ってケアを行った。要望が伝えられない方、新規の方はご家族からも情報をもらい寄り添ったケアを心掛けた。
- ・入職させていただき正直自分が仕事を覚えたりすることで精一杯でした。他の職員の方が親切に教えて下さるので入居者一人ひとりの個別ケアを出来るようにしていきたい。
- ・要望を把握してケア出来た。
- ・希望を介護計画書に反映して、一人ひとりに合わせたケアを出来る限り行えたのではと思う。外出等は来年度から行えたと思う。

## II. ケアの重点目標

### 問2) 面会・外出の充実

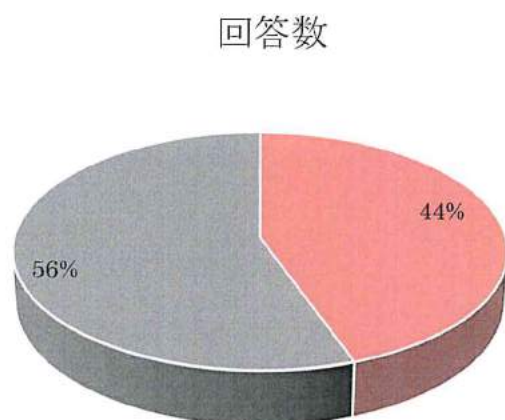


- 1. 完璧に出来た
- 2. ほぼ出来た
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり出来なかった
- 5. 出来なかった
- 6. 無回答

選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	
2. ほぼ出来た	4
3. どちらとも言えない	3
4. あまり出来なかった	2
5. 出来なかった	
6. 無回答	

- ・企画した外出を実施することが出来ず諦めてしまった。花見外出では喜ばれていたもので、やはりもっと外出すれば良かったと後悔している。来年度も同様の企画を立て実施したい。
- ・面会も多く来ていただき、ご家族ともコミュニケーションを図る事が出来た。誕生日等で外食に行け、ご利用者も喜んでいた。
- ・誕生日に外出した際、入居者がとても喜んで下さったので、とても大切な事だと感じた。
- ・まだコロナ禍ということもあり、外出はあまり出来ていなかった様に思える。面会は出来ていたと思う。
- ・対面面会や外出が出来ていた。
- ・外出は出来なかったのですが、来年度感染状況等確認しながら行っていきたい。対面面会は決まったご家族ではあったが行っていた。
- ・コロナ禍で外出は殆ど出来なかった。

### 問3) 食事の充実



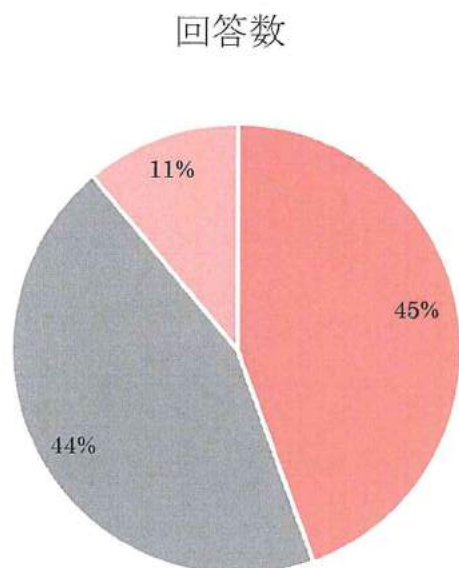
選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	
2. ほぼ出来た	4
3. どちらとも言えない	5
4. あまり出来なかった	
5. 出来なかった	
6. 無回答	

- 1. 完璧に出来た
- 2. ほぼ出来た
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり出来なかった
- 5. 出来なかった
- 6. 無回答

- ・ 経管の方への余暇が後回しになっていた様に感じた。優先的に考えてもいいのかなと思う。
- ・ スーパーは参加される方は楽しみにしており、喜ばれていた。日用品等の希望があった時はもう少し早く購入してほしい（担当になった方）
- ・ 移動スーパーや差入れ等で、食事を楽しまれていた。経管栄養の方の余暇活動があまり出来ていなかったと感じた。
- ・ 移動スーパーを活用し、ご利用者が食べたい物を召し上がられていた。経管栄養の方は1日1～2時間ほど離床されていたがレク等にはあまり出ていなかった様に思う。
- ・ 入居者と食事の時に好みの物の話が出来たり、残される物を見たりして好きな食べ物等少しわかる様になった。職員手作りのお鍋やお菓子を喜んでいたので、また作ってさしあげたい。
- ・ 一部の方しか楽しめていなかった。栄養課での手作りおやつが季節感も味わえて良かった。経管の方への配慮が出来ていない。
- ・ 出前は出来ていないが、ほぼ毎回移動スーパーを利用したり、ご家族の差入れを活用してご利用者に喜んでいただく事が出来たと思う。



問4) ケアの充実

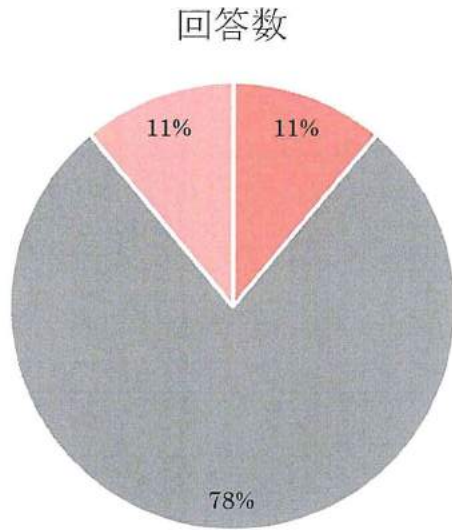


- 1. 完璧に出来た
- 2. ほぼ出来た
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり出来なかった
- 5. 出来なかった
- 6. 無回答

選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	
2. ほぼ出来た	4
3. どちらとも言えない	4
4. あまり出来なかった	1
5. 出来なかった	
6. 無回答	

- ・職員が足りないと入浴出来ない、入浴出来ても急かされる等しわ寄せが入浴にいつてしまつて、その人らしさは考えられていなかった。
- ・4名程行っていた。来年度も継続して環境支援を行っていく。入浴は時間に追われ焦る事が多かった。
- ・少し自分自身仕事に慣れてきたので、担当の入居者についてもっと気にしていきたいと思う。共有空間はその時に応じて整備できていたと思う。居室の設えは個別に合わせ変えても評価などまで出来ていない事が多かった。

問5) III. チーム目標について



選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	
2. ほぼ出来た	1
3. どちらとも言えない	7
4. あまり出来なかった	1
5. 出来なかった	
6. 無回答	

- 1. 完璧に出来た
- 2. ほぼ出来た
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり出来なかった
- 5. 出来なかった
- 6. 無回答

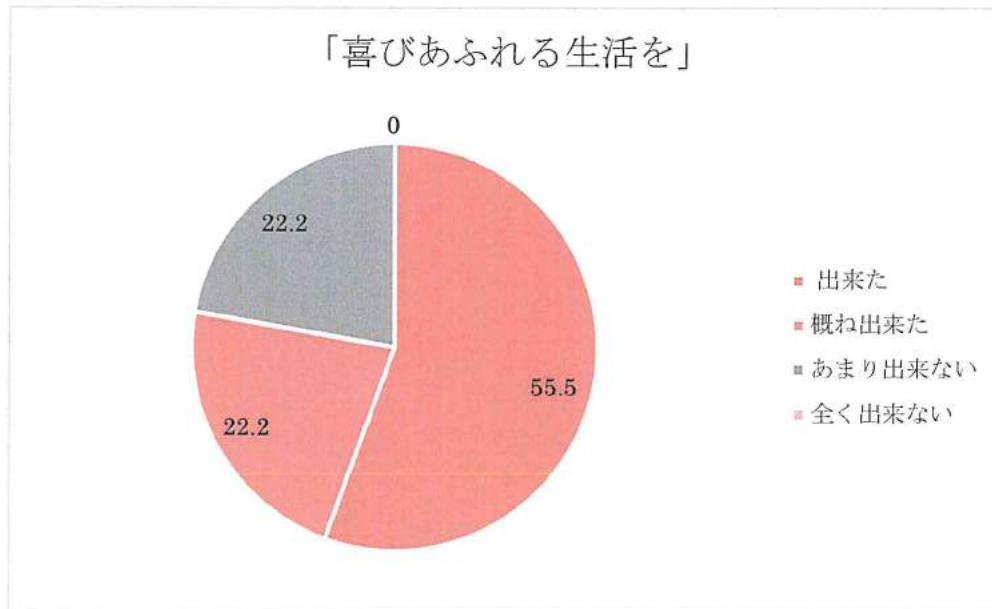
- ・ 週3実施は出来なかった。実践士（公文をやれる人）がもっと必要かなと思う。
- ・ 公文はもっと出来たと思う。意識を持つまで行ってなかった。優しい声掛けは全職員出来ていたと思う。
- ・ 公文学習を学ぶことが出来なかった。多職種と話し合いケアが出来た。
- ・ 公文学習は同じ職員が行っていた。
- ・ 焦ってしまう事があるので落ち着いていきたいと思う。多職種の方に相談する事は出来たと思うので、引き続きしていく。
- ・ 公文が出来ない。多職種との情報共有で利用者に合ったケアは日々出来てると思う。
- ・ 公文は自身が学ぶ事が出来なかった。又、ご利用者の実施もあまり出来ていなかった。もっと気に掛けるべきだった。他はほぼ出来たと思う。

## 令和4年度 新川・梨の花ユニット 理念の振り返り

【共感共楽】 ～共に感じて共に楽しむ～

### I. 介護理念

「喜びあふれる生活を」



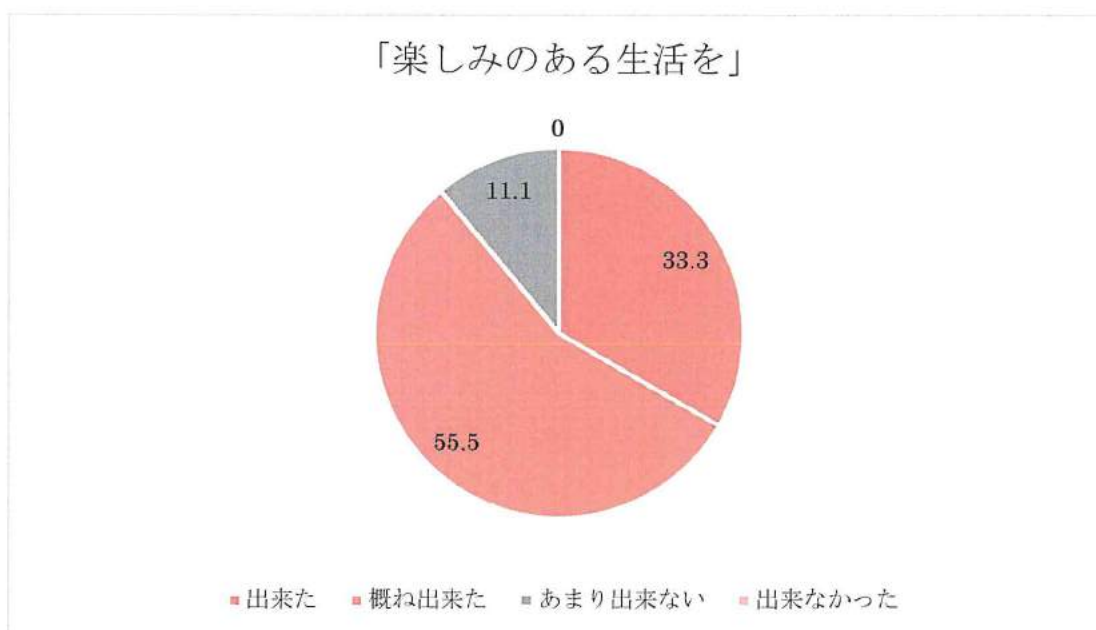
#### 理由

- ・業務に追われる日が多かったが、その中でも楽しみを見つけて利用者に関わる時間をもっと作ればよかったと思った。
- ・ご利用者の皆様が1年間、大きな事故なく元気でいられたので、それだけで嬉しいです。
- ・コロナ禍の対応が続き、レクリエーション・外出・家族との交流が非常に限定的だったから。
- ・職員、ご利用者共によく笑っていました。
- ・みなさん、よく笑っていました。
- ・利用者の気持ちの把握に努めた。
- ・コロナ禍で出来ない事も多かったが、日常生活を楽しんで頂けるよう努力したと思います。ご利用者様の笑顔に多く触れることができました。
- ・ご利用者と日々接する中で笑い合う事ができていたのはとても良い事だと感じました。

## II. ケアの重点目標

### 1、【楽しみのある生活】

- ・季節に合わせて食事の提供や外出企画を毎月実施し、楽しみのある生活を送れるように努めていきます。(お楽しみ会・イベント企画)
- ・ご本人が好きなことや楽しみ等をコミュニケーションを通して把握し、日々の生活や誕生日企画に反映していきます。そのため、介護計画書・24時間シートを職員全員で見直し、考えることでケアの統一を図ります。24時間シートはその都度、見直しを行います。



### 理由

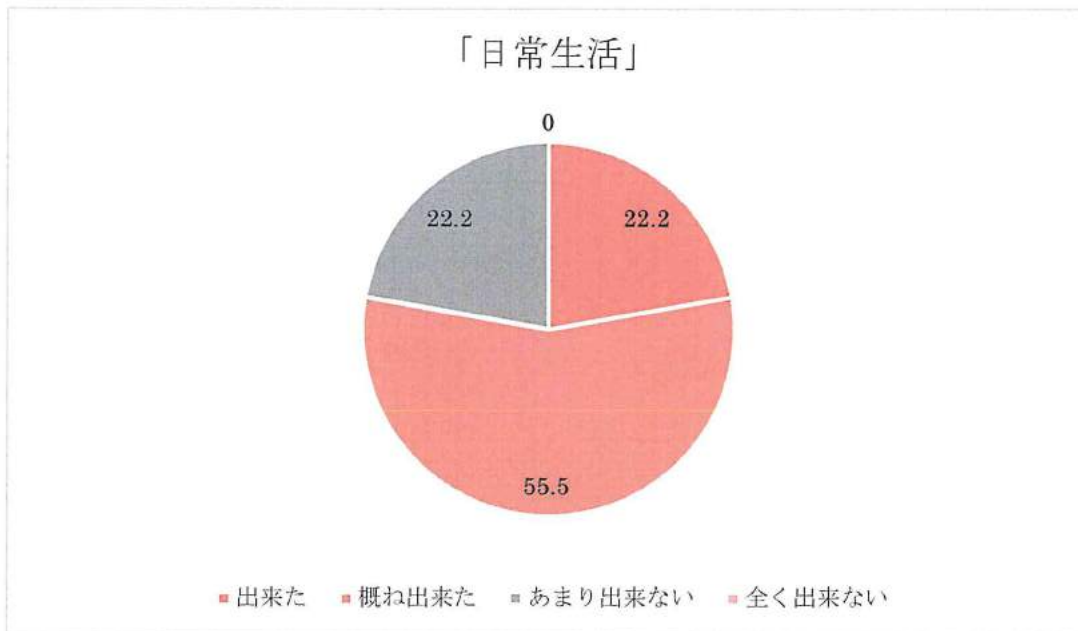
- ・コロナ禍よりは外出できる時が増えた。誕生日会等での外出しかできないが、花見で外に行ける時があり良かった。
- ・自分では企画等はしなかったが外出がなかなかできないご利用者様に外の様子等を伝えるようにしました。
- ・外出企画は多くは出来なかった。以前に比べると半分以下。お楽しみ会、イベント企画等時間や人数が限られた中でとても頑張ったと思う。結果としては、利用者と共に楽しむ機会は乏しかったと感じる。
- ・24時間シートの見直しはすすんでいない。
- ・季節に合わせて食事や外出を行い、楽しめるように声かけをするととても喜ばれていました。
- ・介護計画書・24時間シートは担当がスタッフルームのデスク上に置いて発信す

る事で職員全員見直すことが出来たと思います。

- ・毎月、企画をよく頑張っていました。
- ・すべて見直しました。
- ・外出はコロナ禍のため最近まで、あまりできなかった。
- ・季節を感じて頂く為、施設内での行事では工夫をしながら楽しんで頂けたと思う。
- ・概ねできました。
- ・コロナ禍ではありましたが誕生会や外出企画で少しずつ外出できるようになり、ご利用者も喜ばれていた。皆、個々に合った企画を考え、楽しんでもらえた。
- ・介護計画書・24時間シートの見直しも定期的に行えた。

## 2、【日常生活】

- ・ご利用者 1 人 1 人の生活歴を基に PEAP (環境支援指針) とキャプション評価法を駆使し、個別に合わせた環境支援 (共有空間の設備・居室の設え) を実践します。
- ・生活向上委員会を中心に個々人に合った食事・運動・排泄を見直し、生活の質の向上に努めます。



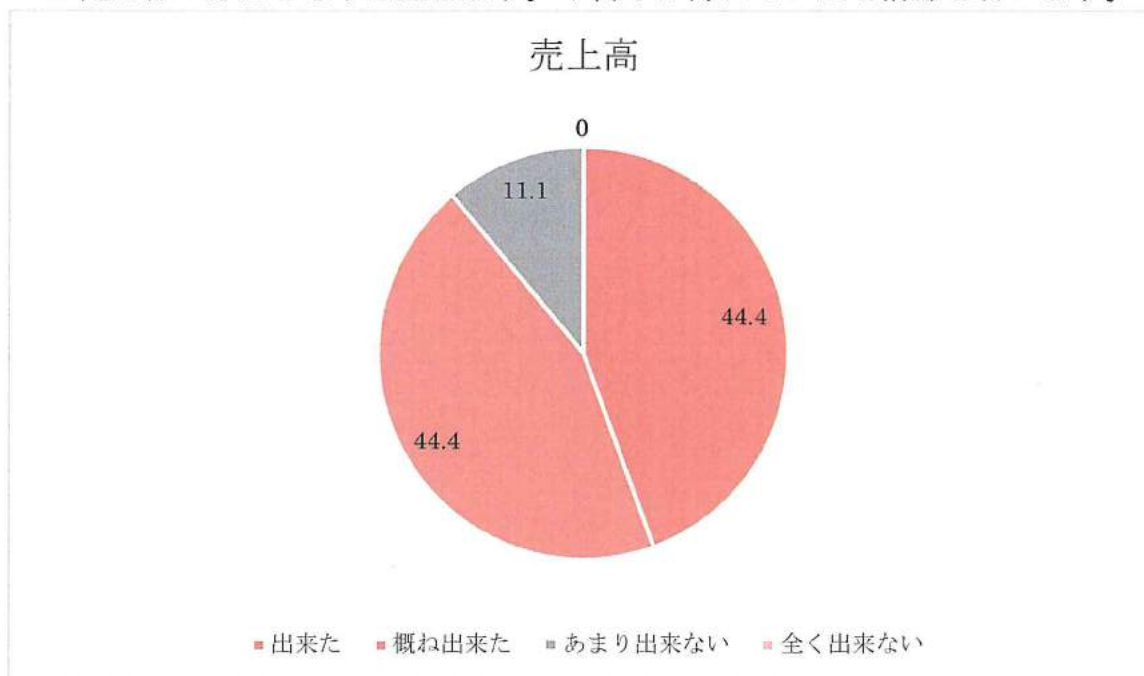
### 理由

- ・キャプション評価を使用して設えを工夫し実践を行っていた。
- ・食事・運動・排泄についてはアセスメント⇒実践がよくできていると思う。
- ・チームでしっかり居室の設え等ができていたと思います。
- ・食事・排泄・運動を見直し、個々人に合ったケアができていたと思います。
- ・担当の居室を整えました。
- ・生活の質が向上したと思います。
- ・担当ご利用者の環境については居室は今まで通りとし、大きな設えの変化はなかった。共有空間は全体では何度か変化があったが個人ではほとんど行えなかった。但し、現状で特に問題もなかったと思う。
- ・食事・運動・排泄も見直しは少なかった。現状維持でできている事も多かったが、大きな問題もあまりなかった。
- ・できました。
- ・リビング等のご利用者に合わせて設えを行っていました。

・生活向上委員と共にご利用者に合わせて出来ていたと思います。

### 3、【身だしなみ・整理整頓】

- ・訪室した際には、ベッド・タンス・洗面所・テーブルなどの整理整頓・掃除を行います。
- ・ご利用者の身だしなみを整えます。車椅子が汚れていたら清掃を行います。

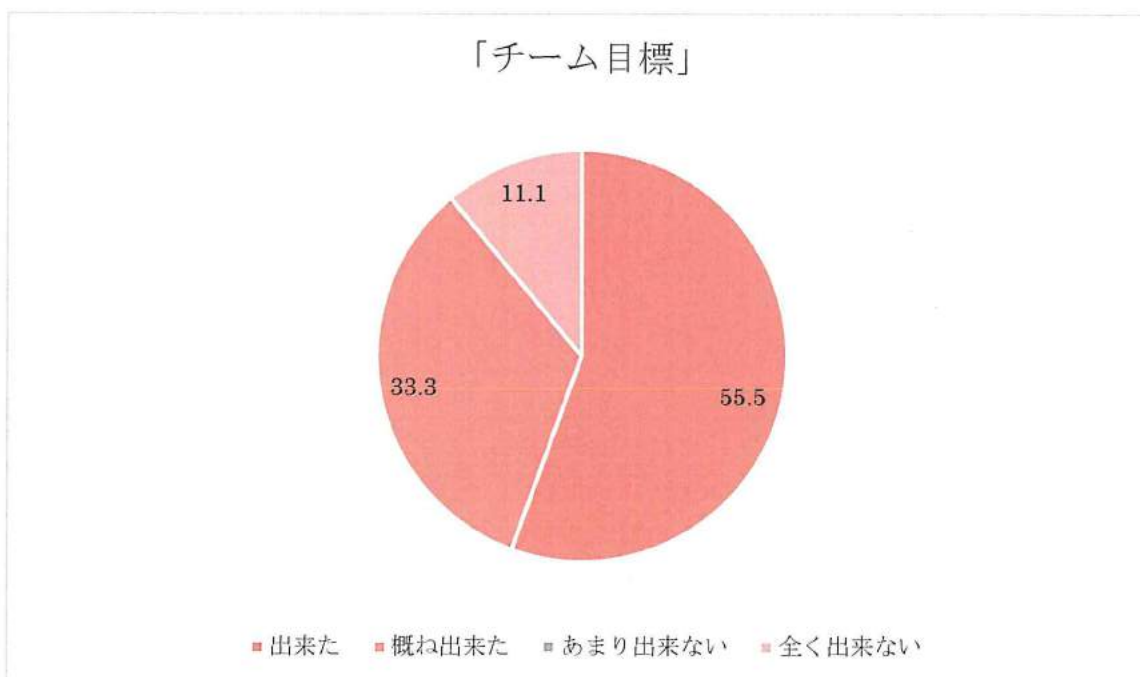


#### 理由

- ・個人的には離床後のベッドをきれいにしてから退室するよう心掛けた。
- ・居室を訪室した際は環境整備も一緒に行うように心掛けました。
- ・居室はまあまあ整った状態を維持できている。
- ・居室の整理整頓を常に意識して行えた。
- ・ご利用者の身だしなみ(寝ぐせや目やには見落とさず)整えることができたと思います。
- ・きれいにしました。
- ・常に整理整頓をこころがけて行った。
- ・業務がいそがしく、毎回の訪室で気付く事があっても片付けられないこともよくありました。
- ・頑張りました。
- ・会議で今月の目標にも掲げ、意識して行っていました。車椅子の清掃をもう少しできれば良かったと思います。

### III. チーム目標

- ・認知機能維持を図る為、公文学習を行います。半年に1度、学習診断・FAB・MMSEを行い、本人に合った教材を選定します。楽しんで継続できるように支援します。
- ・ご利用者・ご家族・職員にそれぞれ合わせ、優しくコミュニケーションを図ります。
- ・毎月の会議でユニットケアを見つめ直していきます。



#### 理由

- ・公文委員が積極的に行っている姿を見た。以前よりもここに行えている回数も増えているように感じた。
- ・公文学習を行える時と行えない時があった。週1回は学習を行うという目標があったが達成できない時もあった。公文委員だけではなく他職員さんも公文への認識を少しでも持ってもらえれば変わるかな？と思いました。
- ・公文学習を行えている。委員が頑張っている。
- ・公文学習を行える日が多く、認知機能の維持が出来ていたと思います。
- ・会議でユニットケアを見直すことで、皆が意識してユニットケアを行っていたと思います。
- ・優しくしました。



- ・見つめ直しました。
- ・公文学習を行った事がない。
- ・公文学習は出来る時に行うというスタンスでしたが、可能な限り行っていました。  
半年に1度の教材選定を行えています。
- ・毎月の会議で職員同士、話し合いができていたと思います。
- ・毎日、ご利用者や職員と話す時、まずは笑顔と優しい声で話します。
- ・公文学習は委員を中心に行い、教材選定もできています。
- ・ユニットケアも細かい事も含め、会議で話し合ってすすめていました。
- ・日々のコミュニケーションも皆、優しくできていました。

## 令和4年度 グリーンヒル八千代台医務課 事業報告

グリーンヒル八千代台 医務課

今年度は新規入所者が6名に対し退所者も8名。退所者の内訳として、看取りで永眠された方が6名、医療機関入院中に永眠された方が1名、長期入院で退所された方が1名でした。入院者数はのべ10名でした。入院の要因となった診断は脳出血の他 発熱を主症状とする多彩な疾患での入院でした。コロナ禍に於いて 発熱を主症状とする場合の受診の受け入れに受診先の病院との連携をスムーズに行うためにコロナ抗原検査を発熱者だけでなく周囲のご利用者またスタッフに施設内で実施し、出来るだけ受け入れられるよう努め受診対応しました。

看取り期に移行する際、「最期を迎える場所を、グリーンヒル八千代台で」と希望されるご家族も多く、看取りケアの充実として、ご家族がお見送りの時間・機会としてできるだけご満足頂けるように、他職種との協働しながら その時を見極め事前にご家族と話し合う機会を設け準備するよう心掛けた1年でした。来年度も、利用者本人と家族の望む人生・生活に視点を当て、話し合いの機会を作り 計画に沿ったケアを行いたいと思います。

次に、今年度の褥瘡発生は軽度のも1件、入院からの持ち込みであった重度のもの1件ありました。軽度の物は発生時に他職種と即座に対策を講じ10日程度で完治できましたが、重度のものは栄養から見直し対策と患部処置、減圧を行い患部改善傾向にありましたが 全身状態の悪化に伴い入院となりました。また 高齢に伴う皮膚の脆弱化による発赤・乾燥・皮下出血やスキンテア（皮膚裂傷）が見受けられました。ヒヤリハット報告にて現状把握実施し他職種と協働しそれぞれのケアの見直し、を行い改善再発防止に努めました。今後も他職種で前年度に行ってきたことを継続し、利用者の方々が苦痛無く快適な生活を送れるよう、更に努めて行こうと考えます。

感染症に関しては、新型コロナウイルス感染がご利用者・職員で数件ありましたが、施設内での発生にての蔓延は6名(ご利用者3名・職員3名)にとどめられました。利用者・職員で、新型コロナワクチン接種を大半の人が接種できたことも大きかったと言えます。また、抗原検査にて、ほぼ全員が毎回陰性でした。これは、スタッフ全員が、マスク・手洗い・換気・人との距離等の感染対策が高い意識を以て社会生活を送られていると評価します。その他の感染症に関しても、発生は見受けられず、感染対策の徹底がなされた結果であると思います。

コロナ緊急事態解除となりましたが、今後も感染対策を重要事項として継続し、来年度も上記を継続した業務として、実践していきます。

最後に、看護理念として掲げている他職種との協働・情報の共有、安全安心な看護、介護の提供し、生活の質の向上をご利用者がその人らしく生活できます様 目標を定め具体策を医務スタッフで話し合い、実践しました。以下の通りです

### 【令和4年度医務課実施達成事項】

- 1.各会議への出席・医務課への情報共有を当日～1日以内とする事で、検討事項・決定事項と即座に反映する事でそれぞれの問題解決に協働した。

- 2.健康管理として 異常所見・問題事案は医務課ファイルを活用し スタッフ同士が会えなくて(人員減少により常勤入れ替わりの勤務体制)も問題解決の為の行動が素早く出来た。
- 3.入浴や保清時に皮膚状態を把握し、ケア方法の検討や個別的な対応を即座に検討協働に努めた。
- 4.服薬管理での配薬ミスは配薬業務時に集中力を維持できるようスタッフ同士が配慮する事で減少継続出来ている
- 5.看取りをより良い時間・機会にする為に 時期を見極め相談員・CW と協働しご家族とカンファレンス実施できた。
6. 利用者の終末期ケアについての事前確認 (毎年実施とする)
7. 医務課内での、業務管理についての問題の抽出
- 8.人員減少により1日1人での勤務日が出来てしまい、他職種に協力して頂けるよう業務見直し・短期入所利用者の胃瘻注入や朝の検温などの協力が得られるよう発信・手順検討・物品・情報共有ツールを周囲に協力得ながら準備しスムーズに実施出来た。(たくさんの方の協力があり無事に乗り切り現在も継続中です)
- 9.小規模多機能との連携は 人員減少に伴い最小限の対応になってしまったが、急な体調不良者やCWの「いつもと違う」の情報から異常発見・受診に繋げ早期治療に繋げられ、また 年末年始にわたり受診できなかった為に類天疱瘡が全身発生してしまった方への毎日の処置を実施、感染悪化などを起こさずに受診まで繋いだ。
10. コロナ禍に於いてはイベント時の来場ご家族全員や体調不良者やコロナ感染者発生時にスタッフやご利用者全員の来所持のコロナ抗原検査を実施する事で 陽性者発見し蔓延防止できた。

リスクマネジメント委員会へ参加することで 問題意識が向上し 介護上の問題点を医療の観点からアドバイスすることが出来 協働しながら改善に取り組めたことは ミス防止や問題に対し真摯に向き合い 緊張感や集中力を維持し 今後もミス事故撲滅継続に努めます。

資 料

第1表 入院者数の推移（前年度比）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	人数	延日数	入院⇒永眠	入院3ヶ月越
R3年度		4	2	4	1	1	0	0	0	0	0	1	1	14	200	2	
R4年度	入院	0	1	1	1	3	0	0	0	3	0	0	1	10	218	1	
	長期入院																

第2表 令和4年度入院者一覧

入居者氏名	入院日	退院・(死亡)日	病 院	入院診断名	備 考
山崎 清子	R4.5.12	R4.5.19	TYMC	尿路感染症	退院
	R4.6.13	R4.6.30	TYMC	胆管炎	退院
	R4.7.5	R4.7.26	勝田台病院	脳出血(大脳)	退院
	R4.8.8	R4.8.19	最成病院	蜂窩織炎の疑いによる発熱	退院
	R4.8.20	R4.10.6	千葉労災病院	新型コロナウイルス感染	セントHPへ転院
	R4.8.23	R4.9.27	鎌ヶ谷総合病院	胆管結石/敗血症	退院
	R4.12.19	R4.12.29	勝田台病院	発熱に対する精査入院	退院
	R4.12.24	R5.1.10	TYMC	誤嚥性肺炎	退院
	R4.12.27	R5.2.4	セントHP	消化管出血疑い	退院
山崎 清子	R5.3.11	R5.4.15	島田台総合病院	電解質異常等	死亡退所

## 1.目標稼働

- ・計画作成者数… 要介護請求件数 月平均 95.5 件  
要支援請求件数 月平均 19.6 件
- ・その他加算あり
- ・目標稼働率…103.3%

## 2.令和4年度総括

- ・他法人との事例検討会につきまして令和4年度は、セントマーガレット病院居宅、(グリーンヒル上高野居宅)と合同開催し、その後の支援に活かしました。
- ・外部研修は昨年度とほぼ同数(24種類)受講し、スキルアップを図りました。
- ・毎週1回居宅内での会議を行っており、事例の検討と共に各々のスキルアップや担当ケアマネの孤立防止を図っています。
- ・本年度から、認定調査の受託を開始しました。
- ・本年度も他部署と連携し、インターフォンの来客対応・行事の際の設営手伝い等を行いました。
- ・居宅用タブレット端末導入により、外出先での入力・情報の参照が可能となりました。既に八千代市内の地域包括は書類の押印廃止が進んでおり、徐々にサービス事業所でも書類の押印廃止の動きが出ています。今後法人内でも押印廃止の方向になれば、さらにタブレット端末の活用方法が増えると考えます。
- ・来年度から「高齢者虐待防止の推進」「業務継続計画(BCP)」が全事業所義務化となります。特に BCP の計画策定について取り組みを進めていきます。

## グリーンヒル八千代台 小規模多機能型居宅介護 【令和4年度 事業報告】

### 1. 目標

令和4年度の小規模多機能については、目標値である28名登録以上については、年間平均28.9名（稼働率99.7%）、平均介護度2.7となり、目標であった平均稼働率99%・介護度2.6をクリアすることができた。新型コロナウイルス感染や感染後の後遺症状により9月には登録中止となる方々も増え、その中で看取り支援するケース1件（看取り加算）あり、地域包括ケアの一端を担うことができました。人材確保については法人本部・八千代台（特養・SS・居宅介護支援・訪問介護・栄養課・キッズルーム）上高野（特養・SS・通所介護・居宅介護支援など）や勝田台地域包括支援センターとの連携・協働し、選考の方法を工夫するだけでなく、条件面の整備、採用する人材像の再考、法人の文化や入職後の評価制度なども工夫することが必要となっているので段階を踏まいた体制を構築したい。

### 2. 内容

ICTの活用として、新たに導入した「内線電話＝ナースコール＝センサー＝記録ソフト」の一气通貫システムをより効率的に運用できるようにしていくこと必要、職員間での意見交換もしっかり行ない、連絡・報告・相談を基本に、サービスの質の向上と業務効率・生産性の向上に取り組む。コミュニケーションについて、新規職員にもユマニチュードの理解を深めてもらうよう声掛け・対応を実施。ご利用者おひとりお一人に寄り添ったサービス・関わり方を随時、職員で意見を話し合う機会は他部署も含め設けるようにして、情報共有に努めることができた。

### 3. サービス提供について

個々のご利用者の趣味活動も機能訓練・脳トレとして場の提供を行ない、行事の際に掲示をするなど披露をし、活動意欲を継続できるように取り組みました。作品を掲示する場を設けてはいるが、飾りつけの環境が整えきれず不十分だった。今年度、災害対策について非常発電機も設置でき、福祉避難所に係わる訓練も行政機関と合同実施でき、職員全体の防災についての意識も高まっている。他部署、地域の方々、地域包括支援センターや民生委員の方々とも情報を共有して防災・減災について協力できる体制作りを継続していくため、今後も防火管理者を中心に継続した訓練や防災についての研修を職員全体で取り組んでいきたい。

## 小規模多機能型居宅介護サテライト グリーンヒル勝田台 【令和4年度 事業報告】

### 1. 目標

令和4年度のサテライトについては、平均介護度 2.1（2年度より 0.1 上昇）体調等の安定により、年間平均登録者 12 名・年間平均稼働率 100%）という結果を3期連続で達成することができた。新型コロナウイルス影響化においても、「通い・訪問・泊まり」のサービスを組み合わせ、多職種会議、八千代台・他部署と連携、協働を行ない、主治医に日々の様子をお伝えして、利用者が地域での生活が継続できるよう支援、体調変化等によるサポートへの柔軟な対応を行うことにより、泊まり・通いのサービスが困難な時も訪問により在宅生活を継続して支援することで、ご利用者及びご家族へ安心感が持てるサービスとして稼働率を 100%にする事ができた。人材育成には、多くの時間と労力が必要となり効果的な人材育成を実施できない状況となっている。また、評価基準が曖昧で成長が評価しづらく、法人全体で人材育成に取り組む意識を根付かせるため法人本部と協力体制を築くことが急務となっている。

### 2. 内容

ICT 関連機器の定着・活用において、LINEWORKS・ZOOM 等の活用を行うことで、本部(八千代台)・他部署と連携・会議等における情報の共有など多職種連携などクラウド上においてファイル管理することで、訪問サービス時や受診時の情報確認など生産性の向上が行うことが出来てきている。研修においては、リモートで参加することができ、内部・外部研修に参加することができ職員のスキルアップにつながっている。より一層の一気に通貫できうるシステムを構築していくことでパフォーマンスを上げることが必要となる。

### 3. サービスについて

ユマニチュードの 4 本の柱の技法を心掛けて、ケアの質の向上を図るためケアプランの見直しや自立支援を意識した支援として、今年 3 月頃より企画など感染症対策をして、お花見やチューリップフェスタに外出するなどの活動も出来てきている。コロナ禍のため、地域主催の夏祭り・防災訓練・サンコーポ餅つき等は中止なる中で、サンコーポ美化運動、サンコーポ自治会と協働によりサンコーポ便りを発行するなど地域の方々との繋がりを継続することで、地域拠点として役割を微力ではあったが担うことができた。

【令和4年度 事業報告】

1. 運営状況

1月に新たに常勤職員を迎えたことで、一時的に訪問できる件数は増えましたが、需要が決まった時間帯に集中しているため、すでに新規ケースをお断りしている状態です。登録ヘルパーの充足が望めない以上、今後の展開についてはさらに厳しい状況になっていると判断しています。

＜職員体制・研修について＞

○管理者1名、サービス提供責任者1名、ヘルパー6名

個々の職員は体調管理を徹底し、安定的にサービス提供出来ました。ご利用者に新型コロナ陽性者がでたり、ヘルパー家族に陽性者がでたり（濃厚接触によるヘルパー自宅待機は延べ6回）ということがありましたが、家庭内感染なし。4月に入りヘルパー2名のコロナ感染があり、人員不足によるサービス提供の調整に苦慮しました。居宅ケアマネ・事務員の方の協力とご利用者の理解、既存ヘルパーの働きにより、サービス提供は漏れなく行なう事が出来ています。特に、利用者の皆様が新型コロナに関する情報をきちんと理解されるようになった印象強く、動揺や混乱が生じることはありませんでした。

○研修についてはフォローアップ研修に加え、オンデマンド研修について積極的に情報収集。常勤職員ができるだけ視聴できるようにしています。事業所内ではありますが、参集研修も再開。参加調整できなかつた場合は、別日に伝達と研修を行なっています。新入職員については、同行訪問の形で繰り返し現場研修を行なうとともに、小規模多機能、特養の協力を得て、訪問介護で技能習得のしにくい身体介護の研修の機会を作っています。

2. 課題と今後の方針

事業所規模が小さいため、コロナ関係での職員の休業を他ヘルパーで補うことが難しい状況でした。事業所内現場の職員のみで対応しなければならないことを考え、来年度の目標件数は下方修正する必要があると考えます。ご利用者の利用される他サービスの事業所の状況の影響も受けるなど、対応についての判断が難しい場面も多々ありました。常日頃様々な想定をし、ヘルパー間で共有していたことで、現場ヘルパーがご利用者の状況によって自身で判断し、全身防護服対応、時短対応など行なえたことが、大きな混乱をまねかなかつた要因と考えます。その体制は今後も続けていきます。

天候に関して、雪や台風で交通事情が悪化した際の対応が喫緊の課題となっています。今年度は積雪がなかったのですが、サービス日程調整、送迎体制など事前準備をしていきたいと

今後もケアマネージャー、ご利用者家族とも連絡を取り合って関係を構築し、サービス提供への支障を最小限に抑えられるよう努力してまいります。

令和4年度目標値及び実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標人数	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
実績人数	33	33	32	32	32	33	32	33	34	34	33	31

以上



## グリーンヒル八千代台キッズルーム報告書

2023年度の利用者延べ人数、幼児437名・学童73名でした。

今年度もコロナ禍にありましたが、感染症対策を講じて施設の行事に参加しました。

8月 2日（火） 夏祭り

ヨーヨー釣り、ポールすくいを楽しみました。

9月19日（月） 敬老会

利用者様にプレゼントをお渡し、写真撮影をしました。

7月12日（火） 千葉県認可外保育施設に対する指導監督

12月20日（火） 千葉県認可外保育施設巡回支援指導

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼児	31	23	22	20	42	35	23	23	33	53	62	70	437名
学童	14	9	9	2	7	8	3	4	4	2	7	4	73名
合計	45	32	31	22	49	43	26	27	37	55	69	74	510名

2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼児	45	61	77	78	63	53	39	53	47	25	42	55	638名
学童	35	23	12	41	67	26	6	14	22	6	8	42	302名
合計	80	84	89	119	130	79	45	67	69	31	50	97	940名

ふらっとホームグリーンヒル 参加者実績

令和4年度

開催月		R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	クリスマス 12月集計に 含む	R5.1	R5.2	R5.3	計	
開催回数(回)		2	4	5	4	1	4	4	3	27	
参加者(人)	喫食	大人 300円	25	76	90	95	38	65	67	62	518
		(うちボラ)	9	27	25	24	5	25	26	23	164
		(うち職員)	2	7	10	6	1	8	8	8	50
		子ども 100円	0	0	5	31	29	11	13	7	96
		その他 0円	3	7	5	3	2	1	0	3	24
		学生 0円	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	喫食小計		29	83	100	129	69	77	80	72	639
	未喫食	大人	3	7	12	10	2	4	5	4	47
		子ども	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	参加者計		32	90	112	139	71	81	85	76	686
地域参加者数		30	83	102	133	70	73	77	68	636	

※地域参加者数：職員を除く参加者

地域参加率	93%
子ども参加率	15%

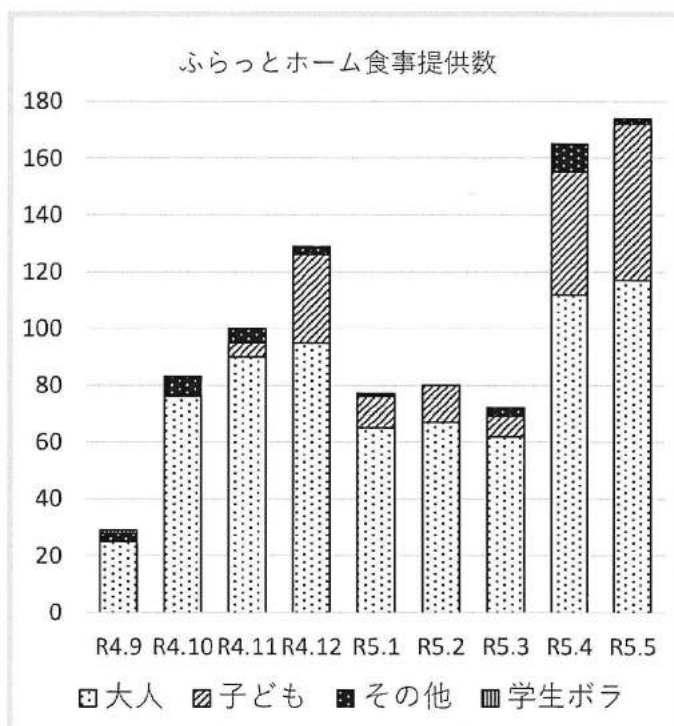
令和5年度

開催月		R5.4	R5.5	計	
開催回数(回)		4	3	7	
参加者(人)	喫食	大人 300円	110	112	222
		(うちボラ)	32	25	57
		(うち職員)	17	9	26
		子ども 100円	43	55	83
		その他 0円	10	2	12
		学生 0円	0	0	0
		キャンペーン 0円	2	5	7
	喫食小計		165	174	339
	未喫食	大人	8	5	13
		子ども	0	0	0
参加者計		173	179	352	
地域参加者		156	170	326	

※地域参加者数：職員を除く参加者

※キャンペーン：八千代台学童にて配布した1名無料券を使用

地域参加率	93%
子ども参加率	25%



R5.5.22現在

グリーンヒル八千代台南デイホーム  
【令和4年度 事業報告】

1. 目標

令和4年6月より法人本部(上高野)グリーンヒル通所介護のサテライト型事業所(定員9名)から地域密着型通所介護事業所(定員10名)としてリスタートしました。開設時の介護度1.4→2.4(5年3月時点・1上昇)、開設時登録者5名→14名(5年3月時点・9名増)、1日平均利用者数1.3名→3.9名(5年3月時点・2.6名増)と徐々にではあるが上昇させることが出来てきているので更なる目標へ向けて連絡・報告・相談のできるチームづくりが急務の課題である。

2. 内容

新型コロナウイルス影響化においても、手洗い・うがい・換気を行ない、感染が疑われる利用者と接する際は予防着・マスク・フェイスシールドを着用して支援に努めご利用者及びご家族に安心をもってもらえるように行動しました。毎月定例会議・研修を通して専門的知識・技術の向上、チーム内での連携を図る体制の構築と共に、オンラインによる外部研修にも各自参加を行ない、個々のスキルアップに繋がるシステムが構築してきている。今後は法人本部及びグリーンヒル八千代台とも協力関係を強固なものとしていくための体制づくりが必要不可欠となっている。

3. サービス提供について

季節に合わせたパンやおやつ作り・裁縫や壁面飾り等の工作・理学療法士による機能訓練、外出行事・管理栄養士による栄養評価等を事業所の特色にしたサービス提供を基本として、お祭りやイベントに参加をすることで、地域の方々と繋がりを作る取り組みを行うことができています。ご家族とは連絡ノートや送迎時の挨拶を通して、毎回ご利用者の体調等の連絡を密にし、ケアマネージャーとサービス状況、状態の変化に応じて逐一電話等の連絡・報告を通して情報共有を行なうてきているので、広く地域に知って頂くことがご利用者を増やすことへつながる活動だと考察している。

## グリーンヒルキッズ(村上)

### 【令和4年度 事業報告】

#### 1. 事業所目標について

##### ① 稼働率 年間稼働率 88.1%

- ・コロナ禍での日々が続いたが、ワクチン接種や感染予防の徹底等で少しずつ落ち着きを取り戻してきた。利用者本人や家族の感染報告事例も減少し、利用状況も平常時に近づく傾向が見られた。年度初めは利用者の入れ替えのため、稼働率が安定しなかった。また、祝祭日や長期学校休業日等は利用者が減少するため、目標の稼働率を達成することができなかった。

#### 2. 事業内容について

- ・児童一人ひとりに寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
- ・マスクの着用、検温、手洗いの励行等感染対策に努めた。座席のスペース確保や食事時の黙食等の徹底を図った。
- ・毎月の茶話会はコロナ感染予防のため、感染対策を徹底して開催した。

#### 3. サービス提供について

- ・キッズジュニアの開設と5名の卒業生がおり、利用メンバーの入れ替えがあった。新規利用者の特性の理解と療育方法について職員間で共通理解を図った。利用継続児童にはキッズ活動が定着しているが、さらなる学習支援・ソーシャルスキルの向上を目指して職員の資質向上を図るべく研修の強化・研鑽が必要である。
- ・3事業所となり、活動の幅が広がった。屋外活動や地域の行事への参加は、児童生徒にとって貴重な体験の場となった。中学生が加わったことで学年に応じた役割分担や多様な集団活動が可能になり、互いの交流が深まってきている。活動の様子は、毎月発行の利用申請書に写真と共に記載して保護者に発信した。

## 令和4年度事業報告グリーンヒルキッズゆりのき台

### 1 事業目標について

稼働率 年間稼働率 99.3%

コロナ感染の影響はなく活動することができたが、社会体験・地域との交流はほとんどなく、近隣の公園遊びが主となった。限られた活動ではあるが、その中でも様々な場面で社会性を育み、のびのびと子どもらしく過ごすことができた。

### 2 事業内容について

- ・児童一人一人に寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。  
こどもが高学年になるに従って指導内容もむずかしくなるので、職員の教科指導に関する研修時間を増やし、対応している。
- ・虐待問題を抱えている児童や、不登校の児童・問題行動には、24時間体制で対応している。関係機関との連携を図り、個々の状況改善に努めた。
- ・茶話会は、コロナ感染予防に対する十分な配慮のもと、4月5月6月9月10月11月1月2月の第3木曜日に開催した。保護者間の情報共有・キッズと保護者との信頼関係構築に大きな役割を果たしている。

### 3 サービス提供について

- ・開設5年が過ぎ、充実した職員数の中で事業経営を行うことができた。
- ・今後も職員の資質向上を図るべく研修の強化・研鑽が必要である。
- ・利用希望児童の申し出は多いが、定員に達しているため、待機児童が増えている。
- ・一人一人の児童の状況把握のためには、今後も関係機関(特に学校など)との連携を密に図り支援に生かす必要があると考える。
- ・3事業所(村上・ゆりのき台・ジュニア)になったことで、夏休みのデイキャンプや市内高校生との朗読劇コラボなど合同活動を行うことができた。今までにない活動内容で、こどもたちの中に潜在していた力を引き出し輝かせる良い活動となり、自己肯定感の高まりにつながった。
- ・毎月発行している利用申請書に児童の活動の様子を写真と共に掲載し、保護者に発信した。外出活動はブログにも掲載し発信している。

## 令和4年度事業報告グリーンヒルキッズジュニア

### 1 事業目標について

稼働率 年間稼働率 71.6%

コロナ感染の影響を受け、学級閉鎖もあり利用者数は減少したが、グリーンヒルキッズジュニア利用児童生徒は感染することもなく、活動することができた。急な受診で欠席する児童生徒がいたため、稼働率は100%達成に至らなかった。また、中学生は部活動を優先したので11月までは利用日が自然と減って増やすことはできなかった。子ども達は昨年のコロナ禍の状況下での生活から少しずつ解放され、のびのびと子どもらしく過ごすことができた。

### 2 事業内容について

- ・児童生徒一人一人に寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
- ・虐待問題を抱えている生徒や、不登校の生徒には、関係機関と協力して対応している。関係機関との連携により、生徒が親と切り離された生活から通常の生活に戻り始めた事例あり。定期的な情報交換と支援が必要である。
- ・茶話会は、コロナ感染予防に対する十分な配慮のもと、5月6月9月10月11月1月2月の第3木曜日に7回開催した。

### 3 サービス提供について

- ・開設1年目を終え、中学生の受け入れ場所として試行錯誤の毎日であった。学習支援・ソーシャルスキルの向上を目指して職員の資質向上を図るべく研修の強化・研鑽や職員のアイデア・工夫が必要である。
- ・利用希望生徒の申し出は多いが、キッズジュニアとしての質を維持し、さらにより良い療育を行うため、待機していただいている状況である。
- ・一人一人の児童生徒の状況把握のためには、関係機関(特に学校など)との連携は必須であり、今年度はさらに強い連携を図ることを考えている。
- ・外出活動が自粛されていたので、ブログ等による情報発信ができなかったが、毎月発行している利用申請書に児童生徒の活動の様子を写真と共に掲載し、保護者に発信した。
- ・長期休みなどは、グリーンヒルキッズ(ゆりのき・村上)と合同の活動を行い、ソーシャルスキルの向上に適した取り組みを行うことができ、効果的であった。

令和4年度 グリーンヒル若葉ハウス 事業報告  
(自立援助ホーム)

1. 運営状況（1日付の在所人数）

- ・年間延べ人数 63名、月平均 5.3人であった。
- ・新規入所：4月1名、6月1名、7月1名、の合計3名。
- ・退所人数：5月1名、10月1名、3月2名の合計4名。
- ・年間措置費収入が、29,823,873円
- ・補助金収入が、4,482,000円

2. 支援内容について

- ・大学生、高校生、特別支援学校生と入所児全員が学生だった。子ども同士の関係づくり、学校生活のフォローなどの支援に努力してきた。
- ・新型コロナウイルスに関してホーム内の衛生対策を徹底した。12月に2名が陽性となったが、軽い軽症でホームの自室で静養し回復した。

3. 研修（外部）

- ・全国自立援助ホーム協議会第27回鳥取大会・オンライン（令和4年11月）
- ・全国自立援助ホーム協議会女性スタッフ研修（令和4年12月）
- ・全国自立援助ホーム協議会スタッフ研修（令和5年1月）
- ・南関東ブロック自立援助ホームスタッフ研修会（令和5年1月）

4. 会議

- ・毎月1回

5. 年間の利用状況（1日付在所）

単位：名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
措置	5	5	5	6	6	6	5	5	5	5	5	5	63
一時保護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	5	5	6	6	6	5	5	5	5	5	5	63

6. 今後の課題

- ・新年度から職員の体制が変わり、若葉ハウスの再スタートとなりました。支援目標としている「当たり前生活をする」「温かい食事を楽しむ」「安心して生活できる居場所づくり」についてどのように実践していけるか、具体的な支援方法をスタッフ全員で検討していきます。

以上

## 令和4年度 勝田台地域包括支援センター事業報告書

### 1. 勝田台地域高齢者状況（R5.3月末現在）

勝田台生活圏域人口16,161人 高齢者人口5,335人 後期高齢者数3,640人 高齢化率33.01%。

平成26年と早い時期から何年来と高齢化率が34%を超えていた勝田台地域だが、ここ2年ほどは33%台で推移している。ただ、後期高齢者の中でも85歳以上の方の伸びが顕著と言える。85歳になると約半数が介護認定を受けるようになると言われており、勝田台地域包括支援センターとしては、必要な方が必要な支援を受けられる体制づくりを意識して取り組んでいる。

### 2. 事務所来所者状況

1年間に地域包括支援センターへの来所者延べ1,827人と前年度より増加。3年以上に及んだコロナ禍生活の影響で要支援・要介護状態になって相談の必要性を感じる方の増加や地域でもウィズ・コロナの考え方の浸透により気を付けながらも日常の動きを取り戻してきたことが原因として挙げられる。

### 3. 総合相談事業実績

1年間の総合相談数延べ6,177件で、電話4,247件、来所1,032件、訪問726件。前年度と比べて対応延べ数には大きな変わりないが、新規相談件数としてはコロナ前の令和元年度879件よりも、令和4年度975件と増加している。相談内容としては介護保険や介護に関するもの、医療・健康に関する相談が例年どおり多く、相談者としては本人・家族、介護支援専門員からの相談が上位を占める。

### 4. 権利擁護に関する実績

○消費者被害防止の啓発（居宅介護支援事業所や民生委員へのチラシ配布）

○高齢者虐待対応

### 5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

○個別地域ケア会議実績 6件

○介護支援専門員へのサポート

- ・ケアマネ交流会 ・ユーアイやちよ勝田台事例検討会 ・個別のケース相談
- ・訪問看護事業所薬局との在宅医療・介護連携研修会
- ・ケアマネ研修会（地域ケア会議について）

○地域包括支援センター啓発活動

- ・みんなの体操広場を通して地域住民へ相談機関としての周知
- ・サンコーポ便りや勝田台自治会報に地域包括支援センターの記事掲載
- ・長寿会、民協、長寿会グループ、支会、サンコーポでの講演



○多職種連携

- ・研修参加などを通して関係機関と顔の見える関係づくり、相互理解の推進
- ・八千代市在宅医療・介護連携支援センターへの相談

○地域住民への企画

- ・みんな体操の広場

コロナ禍の影響下でフレイルなどの課題があり介護予防への取り組みとして開催。地域住民に向けて定期的な運動の機会の提供や健康への意識増進のため、中央公園で平日夕方にラジオ体操ややちよ元気体操など実施。年間参加者延べ6,160人。

○地域の団体の後方支援

- ・お番茶の会
- ・ふれあいサロン

6. 介護予防普及啓発事業

- いきいき教室 15回開催

7. 認知症地域支援・ケア向上業務

- 認知症サポーター養成講座・・・図書館職員向け  
八千代高校

- 家族交流会
- 認知症ケアパスの活用

- 認知症初期集中支援チームとの意見交換

8. 第2層生活支援コーディネーター業務

- ・1層協議体への参加
- ・2層協議体の開催
- ・地域住民の活動支援
- ・八千代市通所型短期集中予防サービスでの個別支援

9. 介護予防（要支援1・2）プラン作成 実績

1年間国保連請求総数2,053件（地域包括860件・委託1,193件）

年間新規81件となっていて、委託ケースはほぼ前年同様であるが、包括の直プランが前年度比で約2.5倍。これは、包括業務を担う職員の担当できる件数（40件）の調整によるものと、介護予防支援事業所においてプランナーで配置している職員の担当件数の伸びを反映している。

10. 連携のための会議

○運営推進会議

- ・小規模多機能型居宅介護サテライトグリーンヒル勝田台運営推進会議
- ・ニチイケアセンター八千代勝田台運営推進会議（書面）

○民生・児童委員定例会議

○八千代市生活支援体制整備事業協議体

○地域包括支援センター各専門職会議

## 令和4年度 本部総務課 事業報告

- I 新型コロナウイルスに対する基本的な感染対策や日々の健康観察・行動記録の継続を促し、感染案件が発生した際は事業継続のため迅速に状況確認を行的確な対応ができるように関連部署と連携しながら施設内感染を防ぐ。  
⇒施設内における3密の回避・換気・手洗い・マスクの着用、1日3回の共有箇所の消毒、ウイルスを持ち込まないための水際対策として出勤前と出勤時の検温・体調報告の徹底、月2回のPCR検査と検査終了後の抗原検査キットによる週2回の出勤前検査を実施した。また、グリーンヒルにおいて令和4年8月と令和5年1月にクラスターが発生した際も特養・医務課等の関連部署と連携しながら衛生材料の安定供給や感染エリア（イエローゾーン）の1日3回の定期清掃など後方支援にあたった。
- II 総務課業務全般のデジタル化を進め作業効率、時間短縮、費用削減、データ管理等について優先項目を整理し取り組む。  
⇒人事に関してはペーパーレス化に向け情報収集を進めていたところ担当者の退職もあり検討が進まなかったため次年度に継続して取り組む。また、ホームページにおける情報発信を随時行い情報公開に取り組んだ。前年度に比べZOOMを利用した会議・研修等が増え機材調整や実施準備に対しほぼ滞りなく対応できた。

### 新型コロナウイルス対策

#### 【PCR検査】

令和2年3月から実施してきたPCR検査の集計（職員定期検査の他に職員の家族・ご利用者を含む）は、令和5年1月報告までの約3年間で総検査数11,000回を超え、そのうち陽性者は142名（陽性率1.3%）であった。\*単価10,000円として110百万円相当  
\*令和4年度は総検査数4,559回 陽性者は56名（陽性率1.2%）

#### 【抗原検査（公費）】

令和5年1月で終了した職員定期PCR検査の代わりに、週2回出勤前に自宅で実施  
\*職員280名×30回×単価1,500円=12.6百万円相当  
\*職員・ご利用者の感染疑いのケース対応 1,050回×単価1,500円=1.6百万円相当

#### 【ワクチン接種】

職員のワクチン接種状況は、3回目まで接種済みは約230名、4回目まで接種済みは約170名と減少した（5回目以降は集計なし）。理由として、接種の都度重い副反応が発生するため敬遠するケースや必要以上の接種を控えたいなどが挙げられる。令和5年5月8日以降は感染症法上の分類が5類に移行したことにより、ウイルス検査や外来診療は原則として自己負担となるため経済的負担が発生し受診控えが懸念される。

### 感染状況把握

感染拡大の第6波が発生した令和4年1月以降、感染または感染の疑いがある職員を①陽性者②濃厚接触者③要観察者に分類し経過観察を実施し、令和5年3月末時点で延べ約270名（①103名②71名③96名）の経過観察を実施した。

### 今後の対応

政府の方針に沿って当面は基本的な感染対策（施設内でのマスク着用・手指消毒・換気・ワクチン接種等）を継続しながら、5類移行後は（抗原検査終了等）段階的に緩和措置を講じ、感染疑いが生じた際は積極的に抗原検査を実施するなど感染を最小限に防ぎながらコロナ禍以前の生活に戻れるように努める。

以上